

# 2021年度三重短期大学年報

三重短期大学内部質保証推進委員会

## 目 次

2021年度三重短期大学年報刊行にあたって	1
2021年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設授業科目における専任担当率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科学研究費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7.	社会活動	
表21	公開講座の開設状況	32
8.	大学運営	
1)	施設・設備	
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2)	図書館	
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3)	財務	
表27	歳入・歳出決算表	38
4)	管理運営	
表28	教授会開催状況	39
9.	専任教員の活動実績	41

## 2021年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年毎に実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。2020年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大が本学の学内運営に少なからず影響を及ぼしましたが、その状況下においても、中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究・教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。（原則12月に公開）

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきますよう関係各方面にお願いいたします。

2022年12月

三重短期大学内部質保証推進委員会

## 2021年度三重短期大学の概況

### 1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。

### 2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。なお、2021年度から生活科学科食物栄養学専攻は、食物栄養学科食物栄養学専攻に改編された。よって、2021年度は、2年生が生活科学科、1年生は食物栄養学科の所属となる。
- ・専任教員は、助教以上が法経科14名、食物栄養学科8名、生活科学科8名の計30名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均22.9(=688/30)名(法経科26.7、食物栄養学科11.6、生活科学科27.6)である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が2名、36歳以上45歳以下が15名、46歳以上55歳以下が8名、56歳以上65歳以下が5名である。
- ・教員の職階構成は、教授11名、准教授12名、講師4名、助教3名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が14名、会計年度職員等が13名となっており、常勤職員の人数が昨年度より1名減となっている。

### 3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、生活科学専攻では49.5%(昨年度48.3%)、法経科第1部が47.8%(53.7%)、法経科第2部が45.5%(57.6%)、食物栄養学専攻が64.3%(68.2%)あり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、生活科学専攻で1.2%増加しているが、法経科第1部5.9%減、第2部が12.1%減、食物栄養学専攻が3.9%減少している。
- ・在籍学生数は、法経科第1部、生活科学専攻ではいずれも定員を充足しており(1.11)、食物栄養学専攻は若干充足していない(0.93)。法経科第2部は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている(0.61)。
- ・卒業判定の合格率は、87.4%であり、昨年度(90.5%)より3.1%減少している。
- ・留年率は、7.2%であり、昨年度(6.6%)より0.6%増加している。
- ・退学・休学状況では、退学率は4.5%であり、昨年度(2.6%)より1.9%増加している。また、休学者数は4名おり昨年度5名より1名減少している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得率が98.0%と昨年度91.8%より6.2%増加した。管理栄養士免許取得者は、昨年度の10名から12名へと増加している。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、昨年度に比べて食物栄養学専攻41名(昨年度39名)と増加し、法経科第2部は22名(22名)と変わらないものの、法経科第1部57名(63名)、生活科学専攻55名(64名)と減少している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第2部18名(昨年度22名)と昨年度より減少しているが、法経科第1部は18名(16

名)、食物栄養学専攻6名(5名)、生活科学専攻20名(19名)と増加している。

#### 4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第1部(110.4)と生活科学専攻(108.6)は、100%を越えているが、食物栄養学専攻(99.6)と法経科第2部(54.7)は100%未満である。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると昨年度の1.49(=520/350)倍から1.47(=516/350)倍へと若干減少しており、過去5年間で最も低い割合となっている。志願者数は全体的に減少傾向であるが、今年度は法経科第1部と食物栄養学専攻は増加し、生活科学専攻が若干減少し、法経科2部は大きく減少した。
- ・入試種別の入学者の構成は、一般選抜(2次募集含む)が36.1%(昨年度37.4%)、学校推薦型選抜が43.2%(40.9%)、共通テスト利用選抜が14.0%(16.6%)、社会人特別選抜が2.4%(2.6%)、関連分野特別選抜が4.3%(2.6%)となっている。昨年度より学校推薦型選抜が2.3%、関連分野特別選抜が1.7%増加したのに対し、共通テスト利用選抜は2.6%減少している。

#### 5. 学生生活の状況

- ・学生相談室は、臨床心理士によりカウンセリングが行われている。利用状況では、年間開室日数は計43日(昨年度46日)あり、昨年度より若干少なく、相談件数も77件(109件)と、昨年度より32件も減少している。なお、今年度の開設時間は16:30~19:30のみとなった。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生688名の50.4%(昨年度48.9%)に当たる347名が受給している。受給学生比率はここ数年増加傾向にある。一人当たりの平均受給額は年間約48.6万円であり、すべて日本学生支援機構奨学金の貸与・給付である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、修学支援新制度によるものは、2021年度前・後期合計で、全額免除138件、2/3免除44件、1/3免除32件、合計214件が認定されている。また、大学独自減免制度によるものは、前・後期合計で、全額免除9件、2/3免除2件が認定された。

#### 6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,045万円である。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費(経常研究費)は法経科で36.5万円、食物栄養学科と生活科学科は31.5万円である。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分(学内経常研究費)の割合は、法経科が58%、生活科学科が54%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2021年度は2件申請があったが採択されなかった。
- ・教員研究室の個室率は、全学科で100%である。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で22.7㎡、食物栄養学科26.7㎡、生活科学科28.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の1週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均9.0授業時間であり、食物栄養学科は平均11.0、生活科学科は平均9.7授業時間である。

#### 7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座は、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講義がある。2021年度の公開講座は、オープンカレッジ10講座、地域連携講座3講座、出前講座17講座が開講された。1講座当たりの平均受講者数は33名であった。

## 8. 大学運営

- ・校地・校舎、講義室・演習室等の面積の増減はない。講義室の学生1人当たりの面積は1.63㎡である。
- ・図書館の収蔵冊数は99,245冊で、2021年度中に1,206冊増加した。また、図書館の入館者数は16,878名（昨年度9,152名）、貸出者数は3,565名（2,229名）、貸出冊数は6,597冊（4,327冊）である。入館者数は昨年度より1,336名（59.9%）増加しており、貸出冊数は2,270冊（52.5%）増加している。
- ・大学財政についてみると、2021年度の歳入合計は5億7,649万円で、そのうち授業料・入学金が2億3,922万円、一般財源が3億2,427万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億2,583万円、大学管理運営事業費1億2,278万円、図書館管理運営事業費1,245万円、施設維持補修事業費832万円、教育研究関係事業費375万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて17回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

## 9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究・教育・社会的活動の状況を掲載した。

## 1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

### (1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

#### 1) 教育研究の理念

##### ① 真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

##### ② 優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。  
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

#### 2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

#### 3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

### (2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

### (3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成  
文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成  
総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成  
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成  
グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。



#### (4) 学科・専攻の目的

##### 法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

##### 法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

##### 食物栄養学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

##### 生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

#### (5) 学科・専攻の教育目標

##### 法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

##### 法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

##### 食物栄養学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

##### 生活科学科生活科学専攻

- ・生活とは「いのち」をつないでいく営みとしての「くらし」に他ならない。生活科学は「いのち」と「くらし」にかかわる諸科学の知見を統合することによって、生活の守護と質的向上を目指す実践的かつ総合的な学問である。自ら賢明な生活者たることを目指すとともに、生活の具体的な場としての地域の快適化と活性化に貢献する人材を育成することが、本学科の教育目標である。
- ・「生活の具体的な場」である地域は、生活の主体である人々（諸個人・家族・コミュニティ）と、その活動の条件となる環境によって構成されるものであって、「生活福祉・心理コース」においては主に前者の、「居住環境コース」においては主に後者の側面から、生活科学を学ぶものである。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<1969年4月> 第2部<1952年4月>	法律コース<2007年4月> 経商コース<2007年4月>
	食物栄養学科	食物栄養学専攻<2021年4月>	
	生活科学科	生活科学専攻<1991年4月>	生活福祉・心理コース<2007年4月> 居住環境コース<2007年4月>

表2 全学の教員組織 (2021年度)

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	5	6	3		14		3	26.71	2	3	2		7	51
	第2部														
食物栄養学科	食物栄養学専攻	2	2	1	3	8		4	11.63			1		1	40
生活科学科	生活科学専攻	4	4			8		4	27.63	4	2			6	59
合 計		11	12	4	3	30		18		6	5	3		14	187
短期大学全体の入学定員に 応じ定める専任教員数								5							

- [注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。  
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。  
 3 2021年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2021年度)  
法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号	
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教授	村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0							2.0	2.0	大阪大学大学院 文学研究科 文学博士
						英語講読	2.0	2.0							2.0	2.0	
						英語講読(法2)	2.0	2.0							2.0	2.0	
						計	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0			6.0	6.0	
教授	橋本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科 法律 コース	刑法		4.0							0.0	4.0	中央大学大学院 法学研究科 法学修士
						刑法(法2)		4.0							0.0	4.0	
						刑事政策		2.0							0.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0					0.0	2.0	
						計	0.0	10.0	0.0	4.0	0.0	0.0			0.0	14.0	
教授	石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0							0.0	4.0	一橋大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						金融論(法2)	4.0								4.0	0.0	
						国際経済論	2.0								2.0	0.0	
						経商基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						計	6.0	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0			10.0	10.0	
教授	藤枝 律子	女	2010/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	行政法	4.0								4.0	0.0	名古屋大学大学院 法学研究科 修士(法学)
						行政法(法2)	4.0								4.0	0.0	
						地方自治法		2.0							0.0	2.0	
						農林体験セミナー	2.0								2.0	0.0	
						法学基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						計	10.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0			14.0	8.0	
教授	大畑 智史	男	2016/4/1	2021/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0							0.0	4.0	東北大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						財政学(法2)	4.0								4.0	0.0	
						地方財政論(法2)		2.0							0.0	2.0	
						経商基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0			8.0	12.0	
准教授	田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース										0.0	0.0	青児休暇中 明治大学大学院 商学研究科 博士(商学)
															0.0	0.0	
						計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	
准教授	今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0								2.0	0.0	関西大学大学院 文学研究科 博士(文学)
						文学Ⅰ(法2)	2.0								2.0	0.0	
						文学Ⅱ		2.0							0.0	2.0	
						文学Ⅱ(法2)		2.0							0.0	2.0	
						ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ	2.0	2.0							2.0	2.0	
						ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0							2.0	2.0	
						ドイツ語Ⅱ・独語Ⅱ	2.0	2.0							2.0	2.0	
						計	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0			10.0	10.0	
准教授	田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0								4.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 博士(経済学)
						経済原論(法2)	4.0								4.0	0.0	
						経済学史		2.0							0.0	2.0	
						経商基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						計	8.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0			12.0	8.0	
准教授	浅野 和也	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 経商 コース	経営学	4.0								4.0	0.0	中京大学大学院 経営学研究科 博士(経営学)
						経営学(法2)		4.0							0.0	4.0	
						人的資源管理論(法2)		2.0							0.0	2.0	
						経商基礎演習				2.0					0.0	2.0	
						演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0				2.0	2.0	
						計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0			8.0	12.0	

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目										最終学歴及び学位称号
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
准教授	川上 哲	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科法律コース	行政学	4.0							4.0	0.0	一橋大学大学院社会学研究科修士(社会学)
						行政学(法2)		4.0						0.0	4.0	
						地方政治論		2.0						0.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.0	12.0								
准教授	川上 生馬	男	2018/4/1	2020/10/1	法経科法律コース	民法I	4.0							4.0	0.0	関西学院大学大学院法学研究科博士(法学)
						民法I(法2)	4.0							4.0	0.0	
						民法III		2.0					0.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
計	8.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.0	8.0								
講師	鷺尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科経商コース	マーケティング論I・マーケティング論	4.0							4.0	0.0	高千穂大学大学院経営学研究科博士(経営学)
						マーケティング論I		4.0					0.0	4.0		
						マーケティング論II		2.0					0.0	2.0		
						経商基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.0	12.0								
講師	鎌塚 有貴	女	2018/10/1	2018/10/1	法経科法律コース	憲法I・日本国憲法・憲法	4.0							4.0	0.0	明治大学大学院法学研究科修士(法学)
						憲法II	2.0						2.0	0.0		
						憲法I・日本国憲法(法2)		4.0					0.0	4.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
計	6.0	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	10.0	10.0								
講師	西川 昇吾	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科法律コース	労働法	4.0							4.0	0.0	熊本大学大学院社会文化科学研究科博士(法学)
						労働法(法2)		4.0					0.0	4.0		
						社会保障法		2.0					0.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.0	12.0								

食物栄養学科

(新カリキュラム)

職名	氏名	性別	就年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期	
教授	橋本 博行	男	2018/4/1	2018/4/1	食物栄養学科	食品学各論	2.0						2.0	0.0	愛媛大学大学院連合農学研究科農学博士	
						食品学総論	2.0							2.0		0.0
						食品の機能		2.0						0.0		2.0
						食品衛生学・食品衛生学II		2.0						0.0		2.0
						食品学実験					3.0			3.0		0.0
						食品衛生学実験						3.0		0.0		3.0
						食物栄養学入門	0.6							0.6		0.0
						管理栄養特殊講義		0.4						0.0		0.4
						特別演習			4.0	4.0				4.0		4.0
計	4.6	4.4	4.0	4.0	3.0	3.0	11.6	11.4								
教授	阿部 稚里	女	2006/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	栄養教育論	2.0						2.0	0.0	岡山女学園大学大学院生活科学研究科博士(人間生活科学)	
						栄養指導論		2.0					0.0	2.0		
						栄養教育論実習I					3.0		3.0	0.0		
						栄養教育論実習II						3.0	0.0	3.0		
						給食計画実務論実習I					1.0	1.0	1.0	1.0		
						給食計画実務論実習II					1.0	1.0	1.0	1.0		
						校外実習事前事後指導							0.2	0.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.4					0.0	0.4		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
計	2.2	2.4	4.0	4.0	5.0	5.0	11.2	11.4								
准教授	駒田 唯衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄養学科	調理学	2.0						2.0	0.0	青森県立保健大学大学院健康科学研究科博士(健康科学)	
						給食計画実務論実習I		2.0					0.0	2.0		
						給食計画実務論実習II					3.0		3.0	0.0		
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0		
						調理学実習II					1.0	1.0	1.0	1.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.4					0.0	0.4		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	2.2	2.4	4.0	4.0	5.0	5.0	11.2	11.4		
						准教授	相川 悠貴	男	2017/10/1	2019/4/1	食物栄養学科	健康管理概論	2.0			
解剖生理学	2.0												2.0	0.0		
生化学	2.0												2.0	0.0		
運動保健学		2.0											0.0	2.0		
生化学実験					3.0								3.0	0.0		
解剖生理学実験												3.0	0.0	3.0		
食物栄養学入門	0.2												0.2	0.0		
管理栄養特殊講義		0.4											0.0	0.4		
特別演習			4.0	4.0									4.0	4.0		
計	6.2	2.4	4.0	4.0	3.0							3.0	13.2	9.4		
講師	杉野 香江	女	2017/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食生活論	2.0						2.0	0.0	鈴鹿医療科学大学保健衛生学研究科修士(保険衛生学)	
						栄養学		2.0					0.0	2.0		
						栄養学実験						3.0	0.0	3.0		
						調理学実習III						3.0	0.0	3.0		
						ライフステージ栄養学	2.0						2.0	0.0		
						食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0		
						管理栄養特殊講義		0.4					0.0	0.4		
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
計	4.2	2.4	4.0	4.0	0.0	6.0	8.2	12.4								
助教	飯田 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	三重短期大学家政科食物栄養学専攻	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	0.2	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.2	4.0		
助教	服部 知美	女	2019/4/1	2019/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	鈴鹿医療科学大学医療科学研究科医療科学修士	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	0.2	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.2	4.0		
助教	福安 智哉	男	2020/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2						0.2	0.0	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科修士(栄養学)	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						計	0.2	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.2	4.0		

生活科学科

職名	氏名	性別	就任年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						科目名	毎週授業時間数				実務・実習・実技				
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期
教授	南 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						環境論(法2)	2.0						2.0	0.0	
						生活と環境	2.0						2.0	0.0	
						環境倫理学	2.0						2.0	0.0	
						環境政策論		2.0					0.0	2.0	
						環境政策論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						生活科学概論	0.8						0.8	0.0	
						居住環境基礎				0.8			0.0	0.8	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						計	8.8	6.0	4.0	4.8	0.0	0.0	12.8	10.8	
教授	長友 薫	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	2.0						2.0	0.0	
						地域福祉論Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.5	0.0	1.5	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0	
						計	4.2	2.0	2.0	4.0	1.5	1.0	7.7	7.0	
教授	木下 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住計画論	2.0						2.0	0.0	三重大学大学院 工学研究科 博士(工学)
						建築製図基礎	4.0						4.0	0.0	
						居住福祉論		2.0					0.0	2.0	
						住生活論		2.0					0.0	2.0	
						住生活設計Ⅰ						4.0	0.0	4.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						居住環境基礎				0.6			0.0	0.6	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						計	6.2	4.0	4.0	4.6	0.0	4.0	10.2	12.6	
						教授	小野寺 一成	男	2014/4/1	2019/4/1	居住環境コース	都市計画論	2.0		
地域政策論Ⅰ・地域政策論Ⅱ	2.0												2.0	0.0	
住環境計画	2.0												2.0	0.0	
地域環境学	2.0												2.0	0.0	
まちづくりとまちづくり設計Ⅰ												2.0	2.0	0.0	
生活科学概論	0.2												0.2	0.0	
居住環境特別演習			4.0										4.0	0.0	
自治体行政特論	2.0												2.0	0.0	
計	10.2	0.0	4.0	0.0	2.0							0.0	16.2	0.0	
准教授	北村 香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース							社会福祉援助技術現場実習Ⅰ		3.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ				4.0			0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習				2.0			0.0	2.0	
計	0.0	3.0	0.0	8.0	0.0	1.0	0.0	12.0							
准教授	武田 誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	医療福祉論	2.0						2.0	0.0	九州保健福祉大学大学院 社会学研究科 修士(社会福祉学)
						社会福祉援助技術総論	4.0						4.0	0.0	
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.5	1.5	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
計	6.2	4.0	2.0	4.0	1.5	1.0	9.7	9.0							
准教授	笠 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0						2.0	0.0	名古屋大学大学院 情報科学研究科 博士(情報科学)
						情報と社会(法2)		2.0					0.0	2.0	
						情報と科学・情報技術論		2.0					0.0	2.0	
						数理科学	2.0						2.0	0.0	
						情報処理実習Ⅰ(法2)						2.0	2.0	0.0	
						情報処理実習Ⅱ							4.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						居住環境基礎				0.6			0.0	0.6	
居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0							
計	4.2	4.0	4.0	4.6	2.0	4.0	10.2	12.6							
准教授	高橋 彩	女	2019/4/1	2019/4/1	生活福祉・心理コース	発達心理学	2.0						2.0	0.0	愛知学院大学大学院 総合政策研究科 博士(総合政策)
						心理学	2.0						2.0	0.0	
						心理学(法2)		2.0					0.0	2.0	
						心理学概論		2.0					0.0	2.0	
						心理学と心理的支援論		2.0					0.0	2.0	
						青年期の心理		2.0					0.0	2.0	
						心理学基礎実験					4.0		4.0	0.0	
						心理学研究法						2.0	0.0	2.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	4.2	8.0	2.0	4.0	4.0	2.0	10.2	14.0							

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。  
2 2021年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2021年度)

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
法経科	教授	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計		2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	4 28.6%	4 28.6%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
食物栄養学科	教授	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%
合計		1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	8 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
生活科学科	教授	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計		0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
全学科	教授	3 27.3%	2 18.2%	2 18.2%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	6 50.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	4 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%
合計		3 10.0%	2 6.7%	3 10.0%	5 16.7%	10 33.3%	5 16.7%	2 6.7%	0 0.0%	30 100.0%
定年 65歳										

[注] 2021年5月1日時点の状況を示す。



表5 事務組織 (2021年度)

	部署名	担当名	専任職員		兼務職員	常勤嘱託職員	会計年度職員	その他	計
				うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	5	2(1)	1		2		7
	大学総務課	総務担当	5	3	3(1)		8	1	14
		地域連携センター							
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
合計			14	9(2)	4(1)		12	1	27

[注] 1 ( ) 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専任担当率

[2019年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	26.00	26.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	29.00	29.09
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	91.00	47.27	48.05
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.50	16.25	18.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	41.67	46.43	45.73
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.91	18.00	18.91
			兼任担当科目数 (B)	0.09	17.00	17.09
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	91.00	51.43	52.53
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	19.00	21.50
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	37.50	45.71	44.87
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	30.00	36.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	24.00	25.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	85.71	55.56	59.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	30.00	46.43	44.38
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	36.00	38.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	44.00	44.00
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	100.00	45.00	46.34
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.25	17.75
			兼任担当科目数 (B)	3.50	18.75	22.25
			専任担当率 % (A / (A + B) * 100)	30.00	46.43	44.38

[2020年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	28.00	29.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	25.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	52.83
		教養教育	専任担当科目数 (A)	14.00	16.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	41.67	42.42
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	18.00	19.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	14.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	56.25
		教養教育	専任担当科目数 (A)	13.00	14.50
			兼任担当科目数 (B)	16.00	18.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	44.83
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	34.90	40.90
			兼任担当科目数 (B)	18.10	19.10
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	85.71	68.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	40.79
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	41.00	43.00
			兼任担当科目数 (B)	46.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	47.13
		教養教育	専任担当科目数 (A)	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	40.79

[2021年度] 食物栄養学科は新カリキュラム

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	26.83	27.75
			兼任担当科目数 (B)	0.08	30.17
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	91.67	47.08
		教養教育	専任担当科目数 (A)	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	19.00	20.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	24.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	44.19
		教養教育	専任担当科目数 (A)	18.00	19.50
			兼任担当科目数 (B)	17.00	19.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	51.43
食物栄養 学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	31.00	36.00
			兼任担当科目数 (B)	19.00	20.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	83.33	62.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22
生活科学科	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	43.00	45.00
			兼任担当科目数 (B)	46.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.31
		教養教育	専任担当科目数 (A)	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	45.71

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必須科目と選択必須科目をあわせたものである。  
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼任科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2019年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	238	1.19	109	129	3	2.33	
	第2部	150	300	174	0.58	96	78	9	11.54	
計		250	500	412	0.82	205	207	12	5.80	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	106	1.06	49	57	1	1.75	
	生活科学専攻	100	200	222	1.11	113	109	1	0.92	
計		150	300	328	1.09	162	166	2	1.20	
合計		400	800	740	0.93	367	373	14	3.75	

2019年5月1日現在

[2020年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	218	1.09	107	111	8	7.21	
	第2部	150	300	189	0.63	86	103	12	11.65	
計		250	500	407	0.81	193	214	20	9.35	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	98	0.98	49	49	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	226	1.13	112	114	5	4.39	
計		150	300	324	1.08	161	163	5	3.07	
合計		400	800	731	0.91	354	377	25	6.63	

2020年5月1日現在

[2021年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	221	1.11	109	112	5	4.46	
	第2部	100	250	153	0.61	55	98	16	16.33	
計		200	450	374	0.83	164	210	21	10.00	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	50	42	0.84	42	-	-	-	
生活科学科	食物栄養学専攻	-	50	51	1.02	-	51	2	3.92	
	生活科学専攻	100	200	221	1.11	108	113	4	3.54	
合計		350	750	688	0.92	314	374	27	7.22	

2021年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表 8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2019年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	30	7	23.3
生活科学科生活科学専攻	2級建築士	12	2	16.7
	社会福祉士			
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	57	56	98.2
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許			

[2020年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	25	10	40.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士	8	5	0.0
	社会福祉士		0	
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	49	45	91.8
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許			

[2021年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	31	12	38.7
生活科学科生活科学専攻	2級建築士	10	5	10.0
	社会福祉士		1	
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	50	98.0

[注] 1 2級建築士合格者数は、本学が把握した人数を計上した。  
受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2019年度			2020年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	129	116	89.9	111	103	92.8
	第2部	78	60	76.9	103	82	79.6
計		207	176	85.0	214	185	86.4
生活科学科	食物栄養学専攻	57	57	100.0	49	47	95.9
	生活科学専攻	109	101	92.7	114	109	95.6
計		166	158	95.2	163	156	95.7
合計		373	334	89.5	377	341	90.5

学科・部・専攻		2021年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	112	103	92.0
	第2部	98	73	74.5
計		210	176	83.8
生活科学科	食物栄養学専攻	51	51	100.0
	生活科学専攻	113	100	88.5
合計		374	327	87.4

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路	2019年度	2020年度	2021年度	
法経科	第1部	就職	民間企業	65	54	47
			官公庁	7	9	10
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	25	16	18
			上記以外	3	3	4
			そ の 他	16	21	24
	合 計		116	103	103	
	第2部	就職	民間企業	21	21	19
			官公庁	1	1	3
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	15	22	18
上記以外			4	4	2	
そ の 他			19	34	31	
合 計		60	82	73		
法経科 計			176	185	176	
生活科学科 (食物栄養学 科R3.4.1~)	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	48	39	41
			官公庁	0	0	0
			上記以外	0	0	0
			( A )	( 32 )	( 29 )	( 32 )
		進学	他大学編入	4	5	6
			上記以外	3	1	1
そ の 他		2	2	3		
合 計		57	47	51		
生活科学科	生活科学 専攻	就職	民間企業	70	60	51
			官公庁	2	4	4
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	15	19	20
			上記以外	1	2	3
			そ の 他	13	24	22
合 計		101	109	100		
食物栄養学専攻・生活科学専攻 計			158	156	151	

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2019年度				2020年度				2021年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	6	4(2)	10	4.2	3	3(3)	6	2.8	2	2(0)	4	1.8
	第2部	5	4(2)	9	5.2	4	5(2)	9	4.8	4	14(8)	18	11.8
	計	11	8(4)	19	4.6	7	8(5)	15	3.7	6	16(8)	22	5.9
食物栄養学科	食物栄養学専攻									0		0	0.0
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0.0	0	0(0)	0	0.0		0(0)	0	0.0
生活科学科	生活科学専攻	4	3(1)	7	3.2	3	1(0)	4	1.8	1	8(2)	9	4.1
	計	4	3(1)	7	2.1	3	1(0)	4	1.2	1	8(2)	9	2.9
	合 計	15	11(5)	26	3.5	10	9(5)	19	2.6	7	24(10)	31	4.5

【休学者】

学 科	部・専攻	2019年度			2020年度			2021年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	1	0(0)	1	1	0(0)	1	0	0(0)	0
	第2部	0	2(0)	2	0	2(1)	2	1	1(0)	2
	計	1	2(0)	3	1	2(0)	3	1	1(0)	2
食物栄養学科	食物栄養学専攻							0		0
生活科学科	食物栄養学専攻	1	0(0)	1	0	0(0)	0		0(0)	0
生活科学科	生活科学専攻	0	2(0)	2	1	1(0)	2	2	0(0)	2
	計	1	2(0)	3	1	1(0)	2	2	0(0)	2
	合 計	2	4(0)	6	2	3(0)	5	3	1(0)	4

- 【注】 1 ( ) 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。  
 2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。  
 3 休学者数は延べ人数で示した。



表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2018年度 入試	2019年度 入試	2020年度 入試	2021年度 入試	2022年度 入試	過去5年間に おけるA/ Bの平均 (%)
法 経 科	第 1 部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	67	77	78	60	59	110.4%
			合格者	53	53	52	56	54	
			入学者	53	53	52	56	54	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	120	140	123	107	92	
			合格者	77	64	64	73	70	
			入学者	62	39	40	48	39	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	40	93	70	17	50	
			合格者	31	32	33	12	30	
			入学者	10	17	14	5	10	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		第1部 計	志願者	227	310	271	184	201	
			合格者	161	149	149	141	154	
	入学者(A)		125	109	106	109	103		
	入学定員(B)		100	100	100	100	100		
	A/B		1.25	1.09	1.06	1.09	1.03		
	第 2 部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	34	35	35	23	13	54.7%
			合格者	28	30	26	20	12	
			入学者	12	13	12	7	8	
			入学定員	30	30	30	25	25	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	28	33	33	24	19	
			合格者	23	25	25	22	18	
			入学者	21	24	21	18	14	
			入学定員	40	40	40	25	25	
		一般選抜 2次募集	志願者					5	
			合格者					5	
入学者							5		
入学定員							0		
共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)		志願者	54	90	79	42	20		
		合格者	53	79	68	41	20		
		入学者	31	56	43	23	14		
		入学定員	50	50	50	25	25		
社会人特別選抜		志願者	12	5	10	7	7		
		合格者	12	4	10	6	7		
		入学者	12	4	10	6	6		
	入学定員	30	30	30	25	25			
第2部 計	志願者	128	163	157	96	64			
	合格者	116	138	129	89	62			
	入学者(A)	76	97	86	54	47			
	入学定員(B)	150	150	150	100	100			
	A/B	0.51	0.65	0.57	0.54	0.47			
学科 合計	志願者	355	473	428	280	265	79.2%		
	合格者	277	287	278	230	216			
	入学者(A)	201	206	192	163	150			
	入学定員(B)	250	250	250	200	200			
	A/B	0.80	0.82	0.77	0.82	0.75			

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

学科	部・専攻	入試の種類		2018年度 入試	2019年度 入試	2020年度 入試	2021年度 入試	2022年度 入試	過去5年間 におけるA /Bの平均 (%)
食物栄養学 専攻	食物 栄養学 専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	38	39	28	32	34	99.6%
			合格者	23	22	25	29	29	
			入学者	23	22	25	29	29	
			入学定員	20	20	20	25	25	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	75	44	40	20	30	
			合格者	45	39	40	18	24	
			入学者	29	22	21	9	12	
			入学定員	25	25	25	20	20	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	21	32	15	21	21	
			合格者	14	21	15	21	10	
			入学者	5	5	3	4	3	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		関連分野特別選抜	志願者					8	
			合格者					8	
			入学者					8	
			入学定員					0	
学科 合計	志願者	134	115	83	73	93			
	合格者	82	82	80	68	71			
	入学者 (A)	57	49	49	42	52			
	入学定員 (B)	50	50	50	50	50			
	A/B	1.14	0.98	0.98	0.84	1.04			
生活科学 専攻	生活 科学 専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	33	36	31	38	38	108.6%
			合格者	32	35	31	36	38	
			入学者	32	35	31	36	38	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	73	74	75	79	65	
			合格者	67	69	65	74	61	
			入学者	42	46	36	42	38	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	129	78	104	38	48	
			合格者	61	53	61	37	47	
			入学者	31	28	33	20	15	
			入学定員	20	20	20	20	20	
		関連分野特別選抜	志願者	7	4	12	9	6	
			合格者	7	4	8	8	5	
			入学者	7	4	8	8	5	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		社会人特別選抜	志願者	1	1	5	3	1	
			合格者	1	1	4	3	1	
			入学者	1	0	4	2	1	
			入学定員	0	0	0	0	0	
学科 合計	志願者	243	193	227	167	158			
	合格者	168	162	169	158	152			
	入学者 (A)	113	113	112	108	97			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
	A/B	1.13	1.13	1.12	1.08	0.97			
短期大学 合計	志願者	732	781	738	520	516	90.6%		
	合格者	527	531	527	456	439			
	入学者 (A)	371	368	353	313	299			
	入学定員 (B)	400	400	400	350	350			
	A/B	0.93	0.92	0.88	0.89	0.85			

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

3 食物栄養学科は2021年度に新設。2020年度まで生活科学科食物栄養学専攻。

4 入試の種類内の括弧内の名称は、2020年度入試までの入試名称。

表13 学科の入学者の構成 (2022年度入試)

学 科	部		入 学 者 数						計	備 考
			一般選抜	一般選抜 (2次募集)	学校推薦 型選抜	共通テスト 利用選抜	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜		
法経科	第1部	入学定員	40		50	10			100	
		入学者数	39		54	10			103	
		計に対する割合	37.9%		52.4%	9.7%			100.0%	
	第2部	入学定員	25	0	25	25	25		100	
		入学者数	14	5	8	14	6		47	
		計に対する割合	29.8%	10.6%	17.0%	29.8%	12.8%		100.0%	
食物栄養学科	入学定員	20		25	5		0	50		
	入学者数	12		29	3		8	52		
	計に対する割合	23.1%		55.8%	5.7%		15.4%	100.0%		
生活科学科	入学定員	30		45	20	0	5	100		
	入学者数	38		38	15	1	5	97		
	計に対する割合	39.2%		39.2%	15.5%	1.0%	5.1%	100.0%		
合 計	入学定員	115	0	145	60	25	5	350		
	入学者数	103	5	129	42	7	13	299		
	計に対する割合	34.4%	1.7%	43.2%	14.0%	2.4%	4.3%	100.0%		

2022年4月3日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	開室時間	年間開設日数			年間相談件数			備 考
				2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度	
学生相談室	0	1	10:30 ~ 13:30	8	9		12	19		臨床心理士
	0	1	14:30 ~ 16:30		1			1		臨床心理士
	0	1	16:30 ~ 19:30	37	36	43	70	89	77	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況 (2021年度)

(単位:千円)

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 (A)	在籍学生 総数 (B)	在籍学生数に 対する比率 (%) A/B	支給総額 (C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	227	688	33.0%	116,646	514
	給付	120		17.4%	52,035	434
計		347	688	50.4%	168,681	486

表16 授業料免除状況

(人)

年度	2019年度		2020年度 (大学独自減免2年)		
	前期	後期	前期	後期	
希望者	64	74	3	4	
全額免除	総数	30	32	2	2
	法経科第1部	9	9	2	1
	法経科第2部	7	8	0	1
	生活科学科	14	15	0	0
	1年次	14	19	0	0
	2年次	16	13	2	2
	半額免除	総数	25	33	0
法経科第1部		8	10	0	0
法経科第2部		3	4	0	0
生活科学科		14	19	0	0
1年次		11	12	0	0
2年次		14	21	0	0

(人)

年度	2020年度 (修学支援新制度に基づく)		2021年度				
	前期	後期	前期		後期		
希望者	136	121	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	
全額免除	総数	78	78	73	4	65	5
	法経科第1部	23	21	24	1	21	1
	法経科第2部	22	25	18	2	15	2
	食物栄養学科			9	0	8	0
	生活科学科	33	32	22	1	21	2
	1年次	41	43	35	0	31	1
	2年次	37	35	38	4	34	4
2/3免除	総数	26	27	21	1	23	1
	法経科第1部	7	9	8	0	9	0
	法経科第2部	7	6	4	0	4	0
	食物栄養学科			4	0	4	0
	生活科学科	12	12	5	1	6	1
	1年次	14	13	10	0	11	0
	2年次	12	14	11	1	12	1
1/3免除	総数	19	13	18	0	14	0
	法経科第1部	4	4	5	0	5	0
	法経科第2部	7	4	6	0	2	0
	食物栄養学科			1	0	2	0
	生活科学科	8	5	6	0	5	0
	1年次	14	9	9	0	6	0
	2年次	5	4	9	0	8	0

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2019年度			2020年度			2021年度			
		研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	
法経科	学内	研究費総額	5,110,000	100%	365,000	4,928,000	100%	352,000	4,890,000	100%	365,000
		経常研究費	3,080,000	60%	220,000	3,080,000	63%	220,000	2,860,000	58%	220,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,030,000	40%	145,000	1,848,000	37%	132,000	2,030,000	42%	145,000
		科学研究費									
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金									
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
食物栄養学科	学内	研究費総額						3,040,000	100%	315,000	
		経常研究費						1,360,000	54%	170,000	
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費						1,160,000	38%	145,000	
		科学研究費						520,000	17%	—	
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金						0		—	
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
生活科学科	学内	研究費総額	10,050,000	100%	315,000	12,994,000	100%	302,000	2,520,000	100%	315,000
		経常研究費	2,720,000	27%	170,000	2,720,000	21%	170,000	1,360,000	54%	170,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,320,000	23%	145,000	2,112,000	16%	132,000	1,160,000	46%	145,000
		科学研究費	3,510,000	35%	—	4,550,000	35%	—	0	0%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	1,500,000	15%	—	3,612,000	28%	—	0		—
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2019年度			2020年度			2021年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
食物栄養学科							2	0	0.0
生活科学科	2	2	100.0	3	1	33.3	0	0	0.0
計	2	2	100.0	3	1	33.3	2	0	0.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。



表19 教員研究室の状況 (2021年度)

学 科	室 数			総面積 (m <sup>2</sup> )	1室あたりの 平均面積 (m <sup>2</sup> )		専任教員数  (B)	個室率 (%)  A/B	教員1人あた りの平均面積 (m <sup>2</sup> )	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	318.0	19.5	45.0	14	100%	22.7	0
食物栄養学科	8		8	213.8	26.7		8	100%	26.7	0
生活科学科	8	1	9	231.4	26.9	35.4	8	100%	28.9	0
計	30	2	32	763.2						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2021年度）

法経科（14人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		11.0 授業時間	10.0 授業時間	10.0 授業時間		1 授業時間:45分
最低		6.0 授業時間	0.0 授業時間	10.0 授業時間		
平均		8.8 授業時間	8.3 授業時間	10.0 授業時間		

食物栄養学科（8人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		11.5 授業時間	11.3 授業時間	10.3 授業時間	4.1 授業時間	1 授業時間:45分
最低		11.3 授業時間	11.3 授業時間	10.3 授業時間	4.1 授業時間	
平均		11.4 授業時間	11.3 授業時間	10.3 授業時間	4.1 授業時間	

生活科学科（8人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		11.8 授業時間	12.1 授業時間			1 授業時間:45分
最低		7.4 授業時間	6.0 授業時間			
平均		9.7 授業時間	9.7 授業時間			

[注] 1 表3で算出した毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
オープンカレッジ	10	0	10	600	0	500	516	0	416	52	0	42
地域連携講座	1	0	3	120	0	150	40	0	105	40	0	35
出前講座	24	3	17	—	—	—	946	56	471	39	19	28
計	35	3	30	720	0	650	1,502	56	992	43	19	33

[注] 1 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオープンカレッジと地域連携講座は中止とした。

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2021年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m <sup>2</sup> )	設置基準上必要 校地面積 (m <sup>2</sup> )	校舎面積(m <sup>2</sup> )	設置基準上必要 校舎面積 (m <sup>2</sup> )	講義室・演習 室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m <sup>2</sup> )
25,045	8,000	7,059	5,700	26	2,623

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

2 校地面積は令和元年度地籍調査により修正。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2021年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備考
講義室			生活専用				
			食物栄養専用				
			法経専用				
	11	1,124.2	共用	940	688	1.63	
演習室	1	35.4	生活専用	12	221	0.16	
			食物栄養専用				
	5	75.0	法経専用	60	374	0.20	
	2	161.8	共用	75	688	0.24	
実験室			生活専用				
	2	279.5	食物栄養専用	100	93	3.01	
			法経専用				
			共用				
実習室	1	163.7	生活専用	50	221	0.74	
	4	634.0	食物栄養専用	120	93	6.82	
			法経専用				
	1	163.7	共用	52	688	0.24	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2021年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	国内書	外国書			2019年度	2020年度	2021年度	
三重短期大学附属図書館	99,245	38,000	100	15	412	12	1,704	1,013	1,206	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2021年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数	利用者用PC (台)		視聴覚資料 視聴ブース (席)
		座席数 (A)				資料検索	データ ベース	
三重短期大学附属図書館	404	76	700	10.9	0	1	1	3

表26 図書館利用状況

専任 スタッフ数 (人)	非常勤 スタッフ数 (人)	年間 開館 日数	開館時間	入館者数 (人)			貸出者数 (人)			貸出冊数 (冊)		
				2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
2 (2)	1.5 (1.5)	226	開講日 8:30 ~21:00  休講日 8:30~ 17:00	18,063	9,152	16,878	3,547 学内 3,439 教職員 411 学生 3,028 学外 108	2,229 学内 2,156 教職員 264 学生 1,892 学外 73	3,565 学内 3,516 教職員 378 学生 3,138 学外 49	6,304 学内 6,127 教職員 892 学生 5,235 学外 177	4,327 学内 4,204 教職員 644 学生 3,560 学外 123	6,597 学内 6,520 教職員 1,021 学生 5,499 学外 77

- [注] 1 スタッフ数の ( ) 内数字は司書の資格を有するもの的人数。  
 2 開館時間には1月と7月の臨時開館日(土曜開館、月末開館)は含まない。  
 3 入館者数は、貸出者数と閲覧利用等の利用者数の合計値。  
 4 貸出者数、貸出冊数は、学内、学外の合計値。  
 5 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5人で換算。



表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
歳入合計		539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	576,493,097	721,879,000
	授業料	219,779,000	215,652,500	219,095,000	227,303,500	204,116,600	197,537,500	192,896,000
	入学料	53,821,000	47,446,100	59,368,700	56,654,200	41,750,700	41,679,600	49,591,000
	入学検定料	11,513,000	13,203,000	14,138,000	13,370,000	9,462,000	9,252,000	10,870,000
	その他歳入	7,894,488	54,290,884	8,042,978	70,056,906	10,663,883	3,751,064	1,626,000
	一般財源	246,911,425	253,680,542	228,244,355	244,322,062	286,544,546	324,272,933	466,896,000
歳出合計		539,918,913	584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	576,493,097	721,879,000
	①一般職給	418,798,765	411,884,817	407,120,234	417,178,346	431,131,614	425,831,740	430,069,000
	②大学管理運営事業	85,214,101	90,504,584	90,002,209	93,185,047	94,223,972	122,781,509	100,454,000
	③図書館管理運営事業	11,140,792	13,864,018	12,460,385	12,819,690	12,770,076	12,453,844	27,904,000
	④地域貢献推進事業	765,312	1,020,967	780,031	676,046	520,328	681,375	951,000
	⑤地域問題研究事業	2,393,756	2,436,758	2,360,368	1,034,866	2,595,544	2,675,621	2,710,000
	⑥教育研究関係事業	12,981,364	11,752,205	11,701,803	11,516,508	8,982,125	3,750,243	7,278,000
	⑦施設維持補修事業	8,624,823	52,809,677	4,464,003	75,296,165	2,314,070	8,318,765	152,513,000

(各年決算資料より作成 2022年度は予算額)

表28 教授会開催状況 (2021年度)

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/15	定例	32	3	1 2021年度各種委員会委員について 2 退学願について 3 再入学希望者に係る審査について 4 既修得単位の認定について 5 地研研究員の承認について
5/20	定例	32	3	1 2021年度各種委員会委員の改定について 2 退学願について 3 小論文・作品コンクールについて 4 学内外活動PR について
6/24	定例	31	4	1 学生に対する処分について 2 今年度の「目標と計画」について 3 非常勤講師の採用について 4 三重短期大学地域問題研究所規程の改訂について
7/15	定例	32	3	1 退学願について 2 改善報告書について 3 創立70周年記念事業実行委員会について 4 三重短期大学法経科専任教員公募要領(案)について 5 三重短期大学地域問題研究所規程の改訂について
9/9	臨時	31	4	1 退学願について 2 令和3年9月卒業判定について 3 科目等履修生合否判定について 4 ワクチン職域接種に伴う後期行事日程の変更について 5 後期時間割について 6 令和4年度行事日程(前期)について 7 生活科学科・転コース制度についての申し合わせについて 8 三重短期大学法経科における転部試験に関する申し合わせについて
10/21	定例	33	2	1 退学願・休学願について 2 三重短期大学創立70周年記念事業実行委員会会則について 3 令和4年度行事日程について 4 三重短期大学法経科における転部試験に関する申し合わせについて 5 研究倫理教育について 6 三重短期大学研究倫理委員会規程の一部改正について 7 三重短期大学研究倫理規程の一部改正について 8 在外研修の承認について 9 非常勤講師の採用について 10 2022年度開設講座表について 11 三重短期大学生活科学科専任教員公募要領について 12 教員評価について
10/28	臨時	33	2	1 令和4年度関連分野特別選抜入学試験合否判定について
11/18	定例	32	3	1 休学願について 2 2022年度開設講座表について 3 法経科専任教員(民法担当教員)公募(第1次選考)について 4 三重短期大学長期履修学生規程の改正について 5 学生部長の改選について
12/2	臨時	33	2	1 令和4年度学校推薦型選抜及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師の採用について

12/16	定例	33	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 法経科専任教員（民法担当教員）公募（第2次選考）について</li> <li>2 退学願・休学願について</li> <li>3 2022年度開設講座表及び時間割について</li> <li>4 非常勤講師の採用について</li> </ul>
1/20	定例	33	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 生活科学科専任教員（社会福祉学担当教員）公募（第1次選考）について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> <li>4 2022年度開設講座表及び時間割について</li> <li>5 令和4年度行事日程（案）について</li> <li>6 三重短期大学学則の改正について</li> <li>7 附属図書館除籍規程（案）、図書の処分方法に関する申し合わせ（案）及び研究室所蔵資料の貸出方法に関する申し合わせ（案）について</li> <li>8 三重短期大学地域問題研究所規程の改正（案）等について</li> </ul>
2/3	臨時	32	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 生活科学科専任教員（社会福祉学担当教員）公募（第2次選考）について</li> <li>2 退学願について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> <li>4 2022年度開設講座表について</li> </ul>
2/14	臨時	31	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度一般選抜入学試験の合否判定について</li> </ul>
2/25	臨時	33	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 令和3年度卒業判定について</li> <li>3 令和3年度栄養士免許取得要件の判定について</li> <li>4 2022年度開設講座表について</li> <li>5 三重短期大学外部評価委員会規程の一部改正について</li> <li>6 研究データの保存・管理・開示の方法に関するガイドラインの一部改正について</li> </ul>
3/8	臨時	32	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度大学入学共通テスト利用選抜（法経科第1部・食物栄養学科・生活科学科）・法経科第2部（一般選抜・社会人特別選抜・大学入学共通テスト利用選抜）入学試験の合否判定について</li> <li>2 2022年度時間割について</li> </ul>
3/17	定例	31	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 成績変更に伴う卒業判定について</li> <li>2 法経科転部希望者の選考結果について</li> <li>3 令和4年度科目等履修生・聴講生の合否判定について</li> <li>4 2022年度開設講座表及び時間割の変更について</li> <li>5 令和4年度各種委員（案）について</li> </ul>
3/24	臨時	33	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度一般選抜入学試験の合否判定について</li> <li>2 休学願について</li> <li>3 2022年度三重短期大学運営方針（案）について</li> <li>4 2022年度キャリア支援方針（案）について</li> <li>5 令和4年度行事日程について</li> <li>6 三重短期大学における教員の勤務及び施設利用等に関する取扱いの改正について</li> <li>7 非常勤講師の採用について</li> <li>8 2022年度開設講座表（案）及び時間割（案）について</li> <li>9 三重短期大学法経科専任教員公募要領（案）について</li> <li>10 三重短期大学地域問題研究所規程申し合わせ事項の一部改正等について</li> <li>11 教員評価について</li> <li>12 教員資格審査委員会委員の改選について</li> </ul>

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、英語講読（共通、昼、通年、2）、英語講読（共通、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーでは進路や学習についての相談に応じ、編入学希望学生には過去問の採点、志望理由書の添削、面接練習などを行った。またTOEICや英検受験希望学生に、学習方法などの指導を行った。		
教育上の工夫	<p>英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p> <p>英語講読（共通、昼、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p> <p>英語講読（共通、夜、通年、2）</p> <p>感染対策をとりながら対面での授業は実施できたが、例年のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくく、「演習」形式ではなく「講義」形式となり、結果的に平板な授業になってしまった。学生人数に対して収容人数の大きい教室を使用したため、板書が見にくくなることを心配し、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。「講義」形式になったため、例年のようなテキスト進捗の遅れはなかったが、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫したい。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	文部科学省 大学設置・学校法人審議会委員 三重県 県民功労者選考委員 内閣府 男女共同参画推進連携会議議員 日本高等教育評価機構 短期大学評価判定委員 全国公立短期大学協会 副会長 三重とこわか国体・三重とこわか大会津市実行委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	「第4回岐阜市立女子短期大学あり方懇談会」出席（2021年12月24日「地域貢献・大学連携についての三重短期大学の取り組み」を報告）		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 小学生の頃、石井桃子訳の『くまのプーさん』を読んでイギリス文学が大好きになり、日本語訳ではなく原語で読めるようになってほしいと思ったことが英語学習のスタートです。大学2年生の時にイギリスの詩人ジョン・キーツの作品に出会い、イギリス文学研究の道を歩むことになりました。研究者となり教員となりましたが、「イギリスと英語が大好き」ということに今も変わりありません。「受験英語」として仕方なく学んできたという人も多いと思いますが、受験勉強から解放された大学の2年間、英文を読み解く楽しさを学生の皆さんと共有できればと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：楠本 孝
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：ヘイトスピーチの刑事規制			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「ヘイトスピーチを刑事規制する川崎市条例について」『三重法経』154号1-36頁（2022年3月）。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：刑法（法1、昼、後期、4）、刑法（法2、夜、後期、4）、刑事政策（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	<p>刑法（法1、昼、前期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>刑法（法2、夜、後期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>刑事政策（法1、昼、後期、2） 死刑存廃論、終身刑導入論、少年法の概要、少年法改正、精神障害者の犯罪と対策について、丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 山口厚『刑法入門』（岩波新書）をゼミ生全員で精読した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市人権施策審議会委員、津市青少年問題協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
ヘイトスピーチ規制の保護法益としての「人間の尊厳」概念について勉強中です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：金融論（法1、昼、後期、4）、金融論（法2、夜、前期、4）、国際経済論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	三重短期大学生協専務理事		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	<p>金融論（法1、昼、後期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>国際経済論（法1、昼、前期、2） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学を予定していたが、コロナ禍で中止した。前期は見学に向けた準備として日本銀行の機能や役割について学んだ。後期は卒論作成を通じた論文作成指導を行いながら、環境と経済と社会のバランスのとれた発展をテーマとした文献を使い、ゼミ生と討論した。</p> <p>金融論（法2、夜、前期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、前期はSDGsをテーマとし、各主体がどのように目標に貢献できるのかを討議した。後期は米中対立を経済、金融面から考える文献を用い日本の進路について考えた。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 経済・金融の基礎を学びながら、レジュメ作成、報告、討論などのゼミ活動に慣れってもらうことに主眼を置いた。テーマは国立第一銀行頭取として日本の資本主義形成に多大な貢献をした渋沢栄一の自叙伝やSDGsに関する文献を使用した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会、日本科学者会議			
2 社会活動実績			
地域連携事業	7月3日にオープンカレッジを担当した。テーマは「日銀の金融政策の限界～異次元の金融緩和の功罪～」		
学外審議会委員等	三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	津演劇鑑賞会幹事、日本科学者会議三重支部事務局長		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>学生部長の任期を終え、久しぶりに研究に専念できるかと思っていましたが、学内ではFDSDワーキンググループ長、生協専務理事、学外では日本科学者会議三重支部事務局長、演劇鑑賞会幹事などの仕事を引き受け、なかなか落ち着いて研究をまとめることができませんでした。今年も引き続き多忙な一年となりますが、少しずつでも研究を進めていきたいと思っています。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：藤枝 律子
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加		
2 研究活動実績		
著書	『転形期における行政と法の支配の省察』共著（法律文化社、2021年6月）	
論文		
その他	連載記事「くらしと自治と憲法と 第8回 ジェンダー平等と日本国憲法」住民と自治1月号(2022年)	
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：「行政法」（法1、昼、前期、4）、「行政法」（法2、夜、前期、4）、「演習」（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、「地方自治法」（法1、昼、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー(火曜日16:10~17:40)、学外演習（裁判傍聴）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導	
教育上の工夫	<p>行政法（法1、昼、前期、4）                  学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しました。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最新のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。</p> <p>行政法（法2、夜、前期、4）                  判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しました。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4）                  それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。判決文や参考文献を読み込んでから、自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、出された意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4）                  前期の前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。</p> <p>地方自治法（法1、昼、後期、2）                  ドキュメンタリー等の視覚教材や新聞の切り抜き等を活用して、地方自治に関心を持てられるように工夫しました。少しでも自分の住んでいる「まち」に関して興味・関心を持てるように、出来るだけ最新のニュースを素材にして授業を組み立てることを心掛けています。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、三重県行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員、四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員、三重県私立学校審議会委員、三重県男女共同参画審議会委員、鈴鹿市景観審査会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：内部留保の経営分析、実質法人税負担率の算定分析			
2 研究活動実績			
著書	共著『図説企業の論点』旬報社、2021年6月。		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>新型コロナウイルスの蔓延により、全世界的に不況に陥ろうとしています。今こそ、企業の内部留保や法人税の負担率を分析することで、企業が抱える問題について明らかにしていきたいと思えます。</p>			

(休暇中)



三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：大畑 智史
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「デジタル経済下におけるエックス税」（三重短期大学地域問題研究所『地研年報』26、1-17頁、2021年）	
その他	「消費税増税を改めて問い直す」（基礎経済科学研究所『自由大学院ニュース』5、2021年）	
学会等報告	「消費税増税を改めて問い直す」（基礎経済科学研究所自由大学院 第7回読者会、ZOOM、2021年） 「関西広域連合への三重県の参加について」（2021年度地研研究交流集会報告、2022年）	
共同研究		
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：地方財政論（法2、夜、後期、2）、財政学（法1、昼、後期、4）、財政学（法2、夜、前期、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	新聞部顧問	
学内教育活動 （その他）	1年 クラス・基礎演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー 2年 演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー、学外学習（自由参加、名張市方面（6月実施）、多気町VISON方面（12月実施）、現地の方との交流を重視）	
教育上の工夫	<p>地方財政論（法2、夜、後期、2）</p> <p>できるだけ、各論点（地方債、公会計、他）の重要な点を、その関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、受講生の授業内容に関するコメントを紹介する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組みをしている。</p> <p>財政学（法1、昼、後期、4）</p> <p>基本的工夫は、「地方財政論」（法2、夜）と同様である。「財政学」独自の教育上の工夫として、中間テストを入れ、受講生の側と自身の側とで授業の効果を確かめる、などの取組みを行っている。</p> <p>財政学（法2、夜、前期、4）</p> <p>基本的な工夫は「財政学」（法1、昼）と同じである。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4）</p> <p>卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部社会科学演習の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、学外学習の実施、などの工夫を行っている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4）</p> <p>基本的な工夫は「演習」（法1、昼）と同様である。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2）</p> <p>2年次にスムーズに卒業論文作成に取り掛かれるよう、これに必要な、演習テーマ（地方創生）に関する考え方やそれについての具体的な知識などの養育が高度になるような取組みを行っている。例えば、受講生のレポート方針を考慮した上での地方創生関係の資料を配布したり、レポートの報告会（経過報告会、最終報告会）を設けたり、自身が担当している2年次演習（第1部、第2部）と一緒に学外学習を実施したりしている。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy		
2 社会活動実績		
地域連携事業	出前講座「消費税増税を再考する」（コープみえ様、8月28日）	
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、基礎経済科学研究所 自由大学院事務局員、日本科学者会議三重支部幹事（会計担当）、三重県政府調達苦情検討委員会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
<p>支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。（研究テーマの応用例：日本の税制へのエックス税構想の意義—ICT活用の視点から—）</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：今本 幸平
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	『アック・トロール 夏の夜の夢』における熊の演説—「笑いの嫌悪」に関する小考』『ハイネ逍遥』第14号、2021年6月、15-23ページ。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生のクラス担任として学生の履修指導を行った。2年生の学生に編入学試験（現代国語）の指導を行った。 オフィスアワー：火曜1300-1430		
教育上の工夫	ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）	従来全員で行っていた発音練習は感染対策の観点から行わず、個別に指導したが、発音については従来と大きく変わらない学習成果があったため、今後もこの方式を継続したい。文法事項の説明や練習問題の解答には板書を行わず、ほぼ全てパワーポイント資料を用いた。	
	ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）	少人数であったが、出席者は全員熱心に取り組んでくれた。昼間の講義と同様にパワーポイントを使用した。要点を整理しやすくなった点良かった。	
	ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2）	新たな文法事項をスムーズに学べるように、ドイツ語Ⅰで学んだ内容を随時復習するようにしている。教科書の文法事項を勉強した後は、検定試験の類似問題等を用いて文法事項の定着に努めている。	
	文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）	普段あまり読書をしないという学生でも、読んでみようという気持ちがあつても起きるように、ポイントとなる場面の解説を関連画像なども用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。	
	文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）	読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。	
	文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）	ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。	
	文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）	ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い別世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ逍遥の会、Internationale Wilhelm-Müller-Gesellschaft（国際ヴィルヘルム・ミュラー協会）			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田添 篤史
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：社会システムの再生産およびその方向性、経済状態の変化とその政治的帰結			
2 研究活動実績			
著書	共著『変容する日本経済 - 真に豊かな経済・社会への展望と課題』鉾脈社（2022年3月）		
論文			
その他			
学会等報告	「資本主義下における民主主義の実質性について」経済理論学会第69回大会（2021年10月） 「資本主義のもとにおける民主主義 - 必要条件としての政治的権力と経済的権力の分離」基礎経済科学研究所2022年春季研究交流集会（2022年3月）		
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、経済原論（法1・生活、昼、前期、4）、経済原論（法2、夜、前期、4）、経済学史（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バドミントン部顧問		
学内教育活動 （その他）	経商コースの1部および2部のクラス担任を受け持ち各種の指導を行った。 ゼミ生に対して編入・就職指導を個別に行った。		
教育上の工夫	<p>経済原論（法1・生活、昼、前期、4） 教科書をベースとして要点を抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。毎回の授業の冒頭で前回の復習を行い、知識の定着を図った。また理解が難しいと思われる箇所については、繰り返し説明するようにした。Googleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。</p> <p>経済原論（法2、夜、前期、4） 昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、昼の講義で不十分だった点を反省し、夜の講義において説明方法、板書内容の改善を行った。</p> <p>経済学史（法1、昼、後期、2） 経済学史で取り扱う学者たちの理論は、現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに要点となる考え方が理解しやすい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかむことを意図した説明を行った。経済原論と同様にGoogleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 前期では日本経済に関するテキストを輪読し自分自身の興味ある対象が何かを探し、後期では卒業論文の作成を行うことで自分の意見をまとめていくという流れは例年と同一である。ただし新型コロナウイルスの流行により授業が中止となった時期が生じたため、その時期については卒業論文の指導を、メールなどを活用して個別に行った。</p> <p>社会科学演習（法1、夜、通年、4） 前期ではテキストの輪読を行い、後期では卒業論文の作成を行うという形で進めた。内容および重視した点は昼の演習と同一である。また昼の演習と同様に、授業が中止となった期間については個別に卒業論文作成の指導を行った。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 2年生から始まる演習との連続性を意識し、文献の収集方法、データの集め方、論文の作成をするうえで基本となるルールの説明を行った。またその後日本経済に関するテキストの輪読を行い、早めに自分の興味あるテーマを設定することを促した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所			
2 社会活動実績			
地域連携事業	みえアカデミックセミナー2021 三重短期大学公開セミナー担当（2021年7月）		
学外審議会委員等	経済理論学会編集局員、基礎経済科学研究所理事、基礎経済科学研究所編集局員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	京都大学経済学研究科「Introduction to East Asian Economies」		
3 一言アピール			
<p>ある社会システムが物質的および制度的に安定的に再生産されるのはどのような場合か、またその方向性は各主体の決定によってどのような影響を受けることになるのかという点について研究を行っています。このことをベースとしながら、経済状態の変化が政治的選択に対してどのような影響を及ぼすのかという点についても研究を進めています。最近特に民主主義という政治制度の持続性を検討しています。</p> <p>教育面では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：浅野 和也
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：自動車産業における労使関係・労務管理研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所編『2021年版 労働年鑑 第90集』旬報社、228-231頁、2021年6月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：経営学（法1、昼、前期、4）、経営学（法2、夜、後期、4）、人的資源管理論（法2、夜、後期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	経商コース主任、1年生クラス担任、就職・編入学指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>経営学（法1、昼、前期、4）                      パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「わかりやすくて面白かった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>経営学（法2、夜、後期、4）                      パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「わかりやすくて面白かった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>人的資源管理論（法2、夜、後期、2）                      パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。人的資源という、経営者が人材を有効活用するためのツールと思われがちなので、働く側からの視点に重点を置いた内容で講義を実践した。なぜ働きすぎによる過労死や過労自殺、うつ病などが社会問題化しているのか制度や構造的な問題、それが私たちの生活に与える影響などについて幅広く扱った。また、受講者の理解度を確保するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「卒業後の働くことを意識することができてよかった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2）                      グループディスカッションを中心に議論する力とコミュニケーションを培うように努めた。演習内でパワーポイント資料を作成しプレゼンを実施した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4）                      労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジュメ作成と発表をしてもらい、内容について議論した。あわせて、就職指導を行った。小論文・作品コンクールに演習として論文を提出し最優秀賞を受賞した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4）                      労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジュメ作成と発表をもらい、内容について議論した。あわせて、編入学・就職指導を行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	令和3年度三重短期大学オープンカレッジ「労働環境の変化と私たちの生活・暮らしについて」		
学外審議会委員等	社会政策学会秋季大会企画委員、労務理論学会理事、北ヨーロッパ学会理事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	愛知東邦大学経営学部「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」、高田短期大学キャリア育成学科「経営管理論」		
3 一言アピール			
経営学をはじめ社会科学を学ぶことをつうじて、社会は多種多様な価値観で形成されているからこそ論理的考察が重要であることを感じてもらえたらと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川上 哲
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：大都市部住民の政治意識分析、デジタル改革の分析、戦後地方自治史研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	デジタル改革の現状と課題：「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」の問題点を中心に（『賃金と社会保障』No.1779 2021年6月） 2000年代以降における東京都議会議員選挙の構造分析（『東京』427号 2021年10月） 2021衆議院議員総選挙から何を読み取るか—今後の展望に向けて（『住民と自治』705 2021年12月） 衆議院議員選挙における都市部の得票の相対的上昇について—投票率の不振と改革支持層の動向を中心に（『三重法経』154号 2022年3月）		
その他	（書評）行政のデジタル化をどう見るか 坂村建・著「DXとは何か意識改革からニューノーマルへ」／堤未果・著「デジタル・ファシズム」（『東京』432号 2022年3月）		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：行政学（法1、昼、前期、4）、行政学（法2、夜、後期、4）、地方政治論（法1、昼、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、後、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動 （その他）	法律コース主任、クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	<p>行政学（法1、昼、前期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。</p> <p>行政学（法2、夜、後期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。</p> <p>地方政治論（法1、昼、後期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。</p> <p>社会科学演習（法2、後、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。受講生の主体性を引き出すため、報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本地方自治学会、社会政策学会、同時代史学会、総合人間学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携センター2021年度オープンカレッジ講師 「東京一極集中はなぜ止まらないのか？」（2021年11月6日）		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	三重大学（行政学）、三重県立看護大学（保健福祉行政論）、皇學館大学（社会保障論）		
3 一言アピール			
2000年代以降、地方自治体の改革がめまぐるしく進行しています。国会においてデジタル改革関連法が成立したことから、「デジタル改革」が地方自治体や地域にどのような影響を及ぼしていくのかを注視しています。引き続き、歴史研究として1970年代の日本社会の構造と地方自治の関係性についても研究していく予定です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鷺尾 和紀
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：マーケティング生活価値の創造・サービスマーケティング 教育改革（国際交流による共同研究）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	鷺尾和紀・鷺尾紀吉『ソーシャルビジネス創業における運営組織の展開—マーケティング発想の重要性—』神奈川大学経営学部『国際経営論集』第63号, pp.87-105, 2022年3月		
その他	鷺尾和紀『2030年の物流の流れと人材雇用の流れ』（社）一般社団法人ヤマトグループ総合研究所, 2021年4月.		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：マーケティング論Ⅰ・マーケティング論ab（法1、昼、前期、4）、マーケティング論Ⅰ・マーケティング論ab（法2、夜、後期、4）、マーケティング論Ⅱ（法1・2、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経済学入門（法1、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	軽音楽部顧問、野球部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスマナー、学外演習（現場実習）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導、資格取得指導		
教育上の工夫	<p>マーケティング論Ⅰ・マーケティング論ab（法1、昼、前期、4） 単に専門用語を覚えるだけでなく、身の回りから心がけることで将来へ向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。授業内において、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めるようにした。</p> <p>マーケティング論Ⅰ・マーケティング論ab（法2、夜、後期、4） マーケティング論（法1、昼）と同様な授業展開を行った。 授業スタイルが確立されたことから、前期より工夫をこなしアンケート集計の評価が高まった。</p> <p>マーケティング論Ⅱ（法1・2、昼、後期、2） 新カリキュラムにより新設科目となった。マーケティングⅠの内容を踏まえ、主に企業研究や地域マーケティングについて授業展開を行った。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 論文を通じて現地調査を行い、論文作成への足掛かりとした。グループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） レポート作成、発表を数回行い、論文作成の足掛かりとした。グループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本商業学会、パーソナルファイナンス学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外委員等	津地方裁判所・津簡易裁判所「民事調停委員」（2021年10月1日～現在）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	伊藤達雄研究室都市環境ゼミナール会員（2017年～現在）		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
マーケティングを通じて、生きる力を身につけ社会に対応できる研究活動と学生指導を行っていききたい。時代の最先端に踏み込んだ、未来への新しい発見とビジネスモデルを追求していきたくと考えている。さらに学生と地域において、還元できるような活動を積極的に行っていききたい。また、コロナにより遠隔授業やオンライン授業の経験をしたことでさらなる教育体制を踏まえつつ、これから先を見据えた授業対応をしていきたい。精一杯精進してまいります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川上 生馬
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：消滅時効制度と私的自治			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	川上生馬「債務者の債権執行の不知と時効の中断—最高裁第一小法廷令和元年9月19日判決民集73巻4号438頁(請求異議事件)—」末川民事法研究会6月例会(2021年6月27日) 川上生馬「基本権たるNHK受信料債権の時効消滅の可否—最高裁平成30年7月17日判決民集72巻3号297頁—」末川民事法研究会9月例会(2021年10月24日) 川上生馬「判例回顧(総則・物権)」末川民事法研究会12月例会(2021年12月19日) 川上生馬「判例回顧(総則・物権)補遺報告」末川民事法研究会1月例会(2022年1月23日)		
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：民法Ⅰ(法1、昼、前期、4)、民法Ⅰ(法2、夜、前期、4)、民法Ⅲ(法1、昼、後期、2)、法学基礎演習(法1、昼、後期、2)、演習(法1、昼、通年、4)、社会科学演習(法2、夜、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	写真サークル「彩撮」顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	民法Ⅰ(法1、昼、前期、4) 教科書を中心とした講義形態とし、講義中に教科書を読み上げつつ、かみ砕いた説明を加えることで、知識の定着を図るだけでなく、予習・復習のための教科書の読み方なども指導した。また、アウトプットとして、正誤問題を解いてもらうことで、学んだ知識がどのように問われるのかを意識してもらうことで、復習の効率アップを図った。		
	民法Ⅰ(法2、夜、前期、4) 教科書を中心とした講義形態とし、講義中に教科書を読み上げつつ、かみ砕いた説明を加えることで、知識の定着を図るだけでなく、予習・復習のための教科書の読み方なども指導した。また、アウトプットとして、正誤問題を解いてもらうことで、学んだ知識がどのように問われるのかを意識してもらうことで、復習の効率アップを図った。		
	民法Ⅲ(法1、昼、後期、2) 教科書を中心とした講義形態とし、講義中に教科書を読み上げつつ、かみ砕いた説明を加えることで、知識の定着を図るだけでなく、予習・復習のための教科書の読み方なども指導した。また、アウトプットとして、正誤問題を解いてもらうことで、学んだ知識がどのように問われるのかを意識してもらうことで、復習の効率アップを図った。		
	法学基礎演習(法1、昼、後期、2) ディベートを取り入れることで、簡単な質問でも気兼ねなく話せる環境を作り、ゼミ内での議論の活性化を図った。また、グループごとの判例報告において、十分に準備期間を取り、一緒に図書館に行ったり、文献を読み解いたりなどすることで、各学生のリサーチ力・読解力の向上を図った。これにより、各班が初回報告とは思えないほど作り込まれたレジュメを基に発表をすることができ、質問内容もより高度なものが出るなど大きな成果が見られた。		
	演習(法1、昼、通年、4) 1年時に学んだことを活かし、当初から1人ずつ報告を行い、他のゼミ生から質問を出すという形式をとった。その際、それぞれの卒論テーマについての報告であったため、専門性が高く、他のゼミ生は質問を出しづらいという状況となったため、ゼミの数日前には報告資料を提出してもらうことで質問を考える時間を確保した。さらに、報告及び質疑が終わったあと、こちらから論文を執筆する際に注意すべきことを全体に対して示した。本来は個別指導において伝えるべき内容も全体に共有することで、各自が執筆に際し、自身で客観的に見直しができるようになっていった。		
	社会科学演習(法2、夜、通年、4) 1人ずつ報告を行い、他のゼミ生から質問を出すという形式をとった。その際、それぞれの卒論テーマについての報告であったため、専門性が高く、他のゼミ生は質問を出しづらいという状況となったため、ゼミの数日前には報告資料を提出してもらうことで質問を考える時間を確保した。さらに、報告及び質疑が終わったあと、こちらから論文を執筆する際に注意すべきことを全体に対して示した。本来は個別指導において伝えるべき内容も全体に共有することで、各自が執筆に際し、自身で客観的に見直しができるようになっていった。社会科学演習は図書館の開館時間等の関係で資料収集の機会が限られており、また、資料を実際に集めたという経験がほとんどない学生であったため、ゼミ時間中に資料収集の方法なども早期の段階で指導した。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、日仏法学会			
2 社会活動実績			
地産連携事業	2021年度第1回地域連携講座 コーディネーター(2021年12月5日実施)		
学外審議会委員等			

### 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

学外講演会・講師等	農業協同組合内部監査士受験者研修会講師（三重県農業協同組合）、「知っておきたい相続のしくみ」平城東公民館シニアからの教養講座
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	愛知大学法学部「担保物権法」、愛知大学法学部「相続法」、日本福祉大学経済学部「専門演習Ⅱ」、日本福祉大学経済学部「専門演習Ⅲ」、関西学院大学商学部「法学A」、関西学院大学商学部「法学B」
<p>3 一言アピール</p> <p>民法改正により消滅時効制度の意義にどのような変化がみられるのかなど、日本法・フランス法を基に検討を行っていきます。          (研究テーマの応用例：約款取引と私的自治、強行法規と私的自治)</p>	



三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鎌塚 有貴
I 研究活動			
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制			
2 研究活動実績			
著書	(共著)『新憲法判例特選〔第3版〕』（2021年、敬文堂）251～275頁担当。		
論文			
その他			
学会等報告	(単独)「コロナ下のICT教育環境整備に関する財政的課題」日本財政法学会、2021年11月6日（オンライン）。		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：日本国憲法・憲法Ⅰ（法1、昼、通年、4）、憲法（生活、昼、前期、4）、憲法Ⅱ（法1、昼、前期、2）、日本国憲法・憲法Ⅰ（法2、夜、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	野球部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスマナー、編入学試験対策・指導		
教育上の工夫	日本国憲法・憲法Ⅰ（法1、昼、通年、4） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	憲法（生活、昼、前期、2） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	憲法Ⅱ（法1、昼、後期、2） 新聞記事を利用して、時事問題を扱った。		
	日本国憲法・憲法Ⅰ（法2、夜、後期、4） 判例の解説に重点を置き、理解を深めるよう努力した。		
	憲法Ⅱ（法1、昼、後期、2） 判例を詳細に分析しながら、実務での憲法解釈の方法を扱った。		
	法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 講義の復習をしながら、現代社会における問題など発展的な課題に取り組んだ。		
	演習（法1、昼、通年、4） 各自報告テーマを選択し、発表した。		
	社会科学演習（法2、夜、通年、4） 学生の自主的な取り組みによる発表形式のゼミを運営した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会、日本財政法学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市いじめ対策協議会委員、津市いじめ問題対策協議会委員、鈴鹿市情報公開審査会委員、鈴鹿市行政不服審査会委員、鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会・鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員、鈴鹿市個人情報保護審査会委員、三重県自動車廃物認定委員、亀山市行政不服審査会委員。		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 教育と研究を両立できるよう頑張ります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：西川 昇吾
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：労働協約法理論の比較法研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「平和義務違反の争議行為－弘南バス事件」別冊ジュリストNo.257 村中孝史＝荒木尚志編『労働判例百選 [第10版]』（有斐閣）196～197頁（2022年1月30日） 「ドイツにおける労働協約の予約法理論－書面性を欠く労使間合意の法的効力如何に対する一帰結」労働法律旬報1984号30～49頁（2021年6月10日）		
その他	「労働協約の方式に関する研究展開過程－到達点と課題－」地研通信139号12～16頁（2021年8月31日）		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：労働法（法1、昼、後期、4）、労働法（法2、夜、後期、4）、社会保障法（法1・生活、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、大学3年次編入指導、公務員採用試験対策指導		
教育上の工夫	労働法（法1、昼、後期、4） 労働法学の正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤とした論理展開ができるよう、とりわけ法的意義や法的根拠、要件等の伝達に留意した。 労働法（法2、夜、後期、4） 受講学生のなかには、社会人経験者も見受けられることから、労働法理論の解説はもとより、その法的対処・解決の見当がつきうる知識・情報等の伝達を心がけた。 社会保障法（法1・生活、昼、後期、2） 社会保障制度の概要を中心としつつも、今後の同制度を担う受講学生が、その望ましいあり方についての自己の見解をもてるよう、法的課題の伝達に注力した。 演習（法1、昼、通年、4） 検討する労働法の争点において確認しなければならない判例・学説の報告と、その後の討論を通じて、論理的思考や自己主張ができる場の構築に努力した。 法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 労働判例の検討を通じて、企業という現場の実情が想像でき、紛争当事者のやり取りの臨場感も再現できるよう、多角的な問いを発した。 社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働事件をどのように解決するかという視点だけでなく、どのような行動をとれば紛争を回避できたかという視点からの討論となるよう、質問等を工夫した。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本労働法学会、社会法研究会、熊本労働法研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「労働組合を活用する方法」三重短期大学オープンカレッジ（2021年10月2日）		
学外審議会委員等	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 三重県福祉サービス運営適正化委員会 委員		
学外講演会講師等	「障がい者雇用の基本的な考え方～事例を踏まえて～」令和3年度「公正採用選考研修会」資料提出（2021年7月27日）		
その他の社会活動	NPO法人労働問題研究所 会員		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
社会法を学ぶことは、みずからの生き方を考えることでもありと解されます。学生一人ひとりが、今後の望ましい労働者像・社会保障制度について、自分なりの見解をもってもらえるよう、研究・教育活動に取り組む所存です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：南 有哲
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：環境概念の理論的探究、生活科学についての原論的理解の深化、外来生物問題をめぐる環境思想の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「欲望としてのバイオフィリア」とその制御—小坪 遊著『池の水を抜くのは誰のため？ 暴走する生き物愛』に寄せて、環境思想・教育研究第14号，2021年11月，77-82.		
その他	尾関周二著『21世紀の変革思想にむけて』を読む——「自然の内在的価値」の問題を中心に——，みえ生活科学研究 No. 1，2022年3月，31-35.		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）、環境政策論（法1・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法2、夜、後期、2）、地域政策論Ⅱ（法2、夜、後期、2）、環境倫理学（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）、居住環境基礎（生活、昼、後期、）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	イラスト部顧問		
学内教育活動 （その他）	一年次クラス担任 オフィスアワー設定、編入学指導		
教育上の工夫	環境論（共通、夜、前期、2） 自然科学的テーマに内容を限定している。		
	生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年） 大量生産・消費・廃棄という現代人の生活の在り方が環境に及ぼす影響およびそれへの対処について、具体的な事例に基づきながら解説している。		
	環境政策論（法1・生活、昼、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。		
	環境政策論（法2、夜、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。		
	地域政策論Ⅱ（法2、夜、後期、2） 地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。		
	環境倫理学（生活、昼、前期、2、隔年） 環境倫理学の柱となるテーマであるところの、「世代間倫理」・「人間中心主義批判」・「環境的正義」についての学説を紹介することで、環境問題をめぐる思想的な課題について解説し、思考を促している。		
	居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。		
	居住環境基礎（生活、昼、前期、2） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図り、なおかつ、2年次における所属ゼミ選択についての判断材料を提供している。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、日本家政学会家政学原論部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ講師「獣害問題を考える」，2021年8月7日		
学外審議会委員等	津市廃棄物減量等推進審議会委員（2021年1月～現在に至る）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

### 3 一言アピール

環境思想と家政学原論の統合を目指します。

（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理、家政学から見た獣害問題）

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書	編著『感染症に備える医療・公衆衛生』自治体研究社、2021年		
論文	「『公的医療費抑制政策転換に向けた意見書』について」『国民医療』No. 351、pp15-19、2021年 「『地域包括ケアシステム&地域医療構想』の検証について 医療・介護・地域をめぐる現状から」『月刊保険診療』No. 76(9)、pp28-32、2021年9月 「『骨太の方針2021』における社会保障・社会福祉について」『福祉のひろば』No. 258、pp38-41、2021年9月号 「『高齢者医療改革』のどこが問題か？」『福祉のひろば』No. 259、pp38-41、2021年10月号		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	「地域の医療・介護保障をめぐる政策動向と地域づくり」 2021年度 三重短期大学地域問題研究所研究員 「コロナ禍における社会福祉援助技術の地域実践とVR等の活用」2021年度 三重短期大学地域問題研究所奨励研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ボランティアサークル部顧問		
学内教育活動 （その他）	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（月曜日3限）、学外演習（自治体、医療機関、福祉施設、労働市場等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	社会福祉論（法1、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえるよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての演習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえるよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々と良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

	<p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）          実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者や職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。</p>
	<p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）          各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>
	<p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4）          各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。</p>
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療福祉政策学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>鈴鹿市議会「地域医療の提供体制と皆保険体制について」2021年10月</p>
学外審議会委員等	<p>三重県行政不服審査会委員、三重県国民健康保険運営協議会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、松阪市地域包括ケア推進会議会長、桑名市障害者自立支援協議会会長、津市NPOサポートセンター理事、津市社会福祉協議会顧問、日本医療福祉政策学会幹事、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所理事、日本高齢期運動サポートセンター理事</p>
学外講演会講師等	<p>社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回引き受けている。</p>
その他の社会活動	<p>医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿</p>
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々と行っています。また、社会保障制度をわかりやすく話すとともに、多様性ある社会をどうつくるか、をテーマに教育・研究活動を行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関するワークショップや計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下 誠一
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	藤枝秀樹、木下誠一、今井正次：「公共複合施設における共用空間のコロナ禍の利用状況について 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その7」、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、2021.9、pp.643-644		
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：居住計画論（生活、昼、前期、2）、居住福祉論（生活、昼、後期、2）、住生活論（生活、昼、後期、2）、建築製図基礎（生活、昼、前期、2）、住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活、昼、前期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。授業の冒頭で前回提出されたレポートの中から優れた評価のものを紹介し解説することで、前回の内容を振り返るようにしている。</p> <p>居住福祉論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。資格に関連した内容にもふれて、資格取得への関心を高めるようにしている。学生の意見等を反映する方法の検討が課題である。</p> <p>住生活論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。講義の最後には、講義のテーマに関連した動画を見てもらうことで、理解を深めるようにしている。学生の意見等を反映する方法の検討が課題である。</p> <p>建築製図基礎（生活、昼、前期、2） コロナ感染防止の観点から、実習室と普通教室の2教室に分けて実施したが、全体への見配りが十分ではなかったように思う。今後、学生個々の理解度を把握し、それに応じた支援方法を検討していきたい。</p> <p>住生活設計Ⅰ（生活、昼、後期、2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。コロナ感染防止のため、実習室と普通教室の2教室に分けて講義を行ったが、実習環境に格差が生じることとなった。</p> <p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 問題解決型の授業として、学生は課題に取り組み、グループワークによる意見交換を通して問題意識を深め、最後に成果を発表する形式で実施している。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させ、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している（今年度はオンラインでの発表となった）。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県開発審査会委員、鈴鹿市景観審議会審査部会員、鈴鹿市景観アドバイザー、松阪市景観アドバイザー、津市景観アドバイザー、津市景観審議会委員、日本建築学会東海支部三重支所運営委員、三重県建設技術センター理事、盲学校・聾学校建築工事ほか設計業務委託に係るプロポーザル方式技術審査委員、津市中勢グリーンパーク官民連携事業における公募対象公園施設設置等予定者選定懇話会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	高田短期大学キャリア育成学科「生活の理解Ⅲ」		
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。 （研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：教授	氏名：橋本 博行
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：食物アレルギー対応食等への食物アレルゲンの管理に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	(公財)ニッポンハム食の未来財団 2020年度研究助成（共同研究）2021年5月31日まで 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）課題番号18K02266 給食施設での粉体食物アレルゲンの飛散特性の解析と混入防止対策 2018-2020（2021年度まで延長）		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：食物栄養学入門（食栄、昼、前期、2）、食品学総論（食栄、昼、前期、2）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、食品学各論（食栄、昼、前期、2）、食品衛生学（食栄、昼、後期、2）、食品学衛生学実験（食栄、昼、後期、2）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1、2年次生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
	食品学総論（食栄、昼、前期、2） 毎回、その回の教育内容の重要項目について、まとめた授業プリントを配布して講義を行った。教科書による予習、復習を指導した。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の該当範囲の過去問により、重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った。		
	食品学各論（食栄、昼、前期、2） 新設科目なので、15回の教育内容の重要項目について、まとめた授業プリントを作成して講義を行った。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の該当範囲の過去問により、重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った		
	食品学実験（食栄、昼、前期、1） 実験は、学生を半数ずつに分け、2つ実験室で実施した。最初の実験科目なので、化学実験を安全に行う方法や練習を繰り返した後に、食品に関する実験を行うようにした。食品学総論の講義内容に相当する実験項目を選んで実験を実施した。		
	食品衛生学（食栄、昼、後期、2） 2科目に分かれていた講義をまとめた新設科目なので、15回の教育内容の重要項目について、まとめた授業プリントを作成して講義を行った。重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った。		
	食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1） 2つ実験室で実施した。食品衛生学で学習した食中毒菌や食品添加物の検査方法について、各自が手法として実施できるようになるように実験を実施した。実験操作について、事前に全員が練習して、全員が操作に習熟できるように心がけた。		
	食品の機能（食栄、昼、後期、2） 食品に含まれる生体調節機能を持つ食品成分について解説した。特に、糖尿病や高血圧等の疾病の成り立ちについて、別科目で習った内容の復習も含めて講義することにより、食品成分による疾病予防効果が理解できるように配慮した。		
	特別演習（食栄、昼、通年、4） 研究助成の内容の、小麦バターの洗浄時のスポンジたわしへの付着性や二次汚染の可能性について実験で確認することができた。実験結果は食品衛生学雑誌に投稿し、2021年2月22日食品衛生学雑誌に採択された。		
	食物栄養学入門（食栄、昼、前期、2） 新設科目で、食物栄養学科の教員がオムニバス形式で、学科の進路の説明や、各授業科目の学び方などを講義した。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本アレルギー学会、日本農芸化学会、日本食品衛生学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座：いろいろな食中毒と予防方法、津市村主公民館 6月22日 商品開発支援：もち麦粉を使用した商品開発 ミエハク工業株式会社		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
集団給食施設等の食物アレルギー対応食の調理現場において、食物アレルゲンの衛生管理について総合的に研究を行い、衛生管理手法の提案をしています。 (研究テーマの応用例：食物アレルギー対応食の調理場における食物アレルゲンの混入防止対策)			



三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動			
1 研究課題：地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造、多核ネットワーク型都市構造、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果			
2 研究活動実績			
著書			
論文	旧庁舎跡地活用による市民ホールを有する地域拠点「核」の形成 一津市久居アルスプラザの整備過程を事例として 三重短期大学生活科学研究会紀要 みえ生活科学研究 第1号（創刊号） 2022年3月 地方合併都市における地域拠点「核」の形成に関する考察 一津市における旧庁舎跡地活用を事例として 2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演研究発表会オーガナイズドセッション都市計画部門 C.人口減少・感染症と戦う地方都市のプランと拠点デザインの展開・実践 選抜梗概（採択済み）		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	「都市計画関連法改正に伴う計画論・技術論の変遷と地方都市再生の計画及び事業の分析」2021年度 三重短期大学 在外研修、研修期間：2021年10月1日～2022年3月31日、研修先：福井大学学術研究院工学系部門、研修先職位：福井大学客員教授、研修指導者（受入者）：野嶋 慎二（福井大学学術研究院工学系部門 建築建設工学専攻 教授）		
II 教育活動			
1 担当科目：まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、2・1）、住環境計画（生活、昼、前期、2）、地域政策論Ⅰ・地域政策論（食栄・生活・法1、昼、前期、2）、自治体行政特論（食栄・生活・法1、昼、前期、2）、まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1）、地域環境学（生活、昼、前期、2）、都市計画論（生活、昼、前期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市一身田寺内町の館及び寺内町の視察（校外演習v.1）、津市津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察（校外演習v.2）、大山市博物館明治村 世界的建築家フランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル他、建築遺産の視察（校外演習v.3）を実施		
学内教育活動 （その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：火曜日13:30～15:00、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究と発表会の指導、及び「2021年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・計画・設計）集」の作成・編集。また、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接試験の指導。		
教育上の工夫	まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ（生活、昼、前期、2・1） 本講義は2年生向けの講義であることから2021年度はまちづくり設計Ⅰとしての開講となった。今年度も、新型コロナ禍のため、グループワークではなく個人設計とした。結果として、各自が設計に取り込める時間が増えることとなった。現地調査、テーマ、コンセプトなどを検討する際、出来る限り参考資料を配布するとともに具体的な事例を紹介しながら説明している。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、今年度は1単位1時限であることと個人設計としたことから、履修者数が減少した。来年度からまちづくり企画として2単位に変更され、グループワークになることから履修者の増加を期待したい。		
	住環境計画（生活、昼、前期、2） 講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。なお、一昨々年度「プリントはカラーの方が絶対いい。」との意見があり、一昨々年度途中、デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。		
	地域政策論Ⅰ・地域政策論（食栄・生活・法1、昼、前期、2） 今後、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。なお、一昨々年度「途中からカラー印刷になり非常に見やすかったです。初めて知る内容が結構ありました。地域の活性化に役立てたいです。」との意見があることから、一昨々年度デモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。		
	自治体行政特論（食栄・生活・法1、前期、2） この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義であるが、どの講義も履修者が増加すると総合評価が下がる傾向にあることが課題である。毎回の講義内容を履修ノートとして提出するとともに、津市議会の傍聴レポートを課題としている。講演者が話しやすく学生が質問し易い状況をつくることを心掛けたい。		
	まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ（生活、昼、後期、1） 今年度は、在外研修のため、非常勤講師（三重大学大井隆弘助教）にお願いした。		
	地域環境学（生活、昼、前期、2） 2021年度は在外研修のため、本講義を後期から前期講義へ移行した結果、受講人数が少し減少した。学生の段階的履修を継続するためには、在外研修中も後期講義開催ができるような検討が必要となる。なお、受講人数が多くなったり大教室で講義を行った場合、評価が下がる傾向にある。今後もパワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、「学生の興味を引く工夫」を施し、最新の情報などを取り入れ、「知的興味」を持てるようにしたい。		
	都市計画論（生活、昼、前期、2） 2021年度は在外研修のため、本講義を後期から前期講義へ移行した結果、受講人数が減少した。学生の段階的履修を継続するためには、在外研修中も後期講義開催ができるような検討が必要となる。今後も、新しい情報を加えるとともに「わかりやすさ」に努め、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて「興味を持てるような工夫」をしたい。例年、履修学生が増えた時の評価が課題となる。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

<p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）</p> <p>授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究計画及び卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業計画・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。2021年度は、新型コロナ禍のなか、ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、大山市博物館明治村の視察を行った。</p>	
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>2021年度 三重短期大学オープンカレッジ「コミュニティと住民参加」～木造密集市街地の住環境整備と公営住宅建替え事業～講演</p>
学外審議会委員等	<p>一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市拠点デザイン小委員会委員（2019.4～）、一般社団法人日本建築学会 東海支部 常議員（2020.6.1～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会幹事（2019.4～）、三重県公共事業評価審査委員会（技術(都市計画)）（2020～）、三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、津駅周辺道路空間検討委員会委員長（2021～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）、津市福祉有償運送運営協議会委員（会長）（2014～）、四日市市開発審査会委員（都市計画・建築）（2016～）、尾鷲市都市計画マスタープラン見直し策定委員長（2020～2021）</p>
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画論の共存、住民参加型計画の効果、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地方都市再生、持続可能な多核ネットワーク型都市構造の検討、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：教授	氏名：阿部 稚里
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：和食に関する研究、栄養教育の有効性に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>(1)Masayo Sanada, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, <b>Chisato Abe</b>, Norie Suzuki, Ayaka Inden, Takumi Kato, and Hiroshi Shimokata. (2021). Changes in the association between Traditional Japanese Diet Score and suicide rates over 26 years: a global comparative study. J Affect Disord. 2021 1;294:382-390. (査読あり)</p> <p>(2)Ayako Sezaki, Tomoko Imai, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, <b>Chisato Abe</b>, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Suzuki, Hiroshi Shimokata. (2021). Global Relationship between Mediterranean Diet and the Incidence and Mortality of Ischemic Heart Disease. Eur J Public Health. 2021 13;31(3):608-612. (査読あり)</p> <p>(3)<b>Chisato Abe</b>, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Hiroshi Shimokata. (2021). A longitudinal association between the traditional Japanese diet score and incidence and mortality of breast cancer-an ecological study. Eur J Clin Nutr. 2021 75(6):929-936. (査読あり)</p> <p>(4)Yoshiro Shirai, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, <b>Chisato Abe</b>, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Suzuki, Hiroshi Shimokata. (2021). Trends in age-standardised prevalence of type 2 diabetes mellitus according to country from 1990 to 2017 and their association with socioeconomic, lifestyle and health indicators: an ecological study. J Glob Health. 2021 Jan 31;11:04005. doi:10.7189/jogh.11.04005. (査読あり)</p>		
その他			
学会等報告	<p>(1)<b>Abe C</b>, Imai T, Sezaki A, Miyamoto K, Kawase F, Shirai Y, Inden A, Kato T, Sanada M, Shimokata H 「Traditional Japanese Diet Score and cancer incidence and mortality- a 23-year longitudinal global study」 World Congress of Epidemiology, web. 2021.09</p> <p>(2)阿部稚里、今井具子、瀬崎彩也子、宮本恵子、川瀬文哉、白井禎朗、位田文香、加藤匠、眞田正世、鈴木規恵、下方浩史「和食スコアと全死亡率との関連—10年間の追跡研究」第68回 日本栄養改善学会学術総会 2021年10月 誌上发表 その他共同発表者として、国際学会3報、国内学会9報</p>		
共同研究 助成研究	<p>一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員</p>		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：栄養教育論（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、栄養指導論（食栄、昼、後期、2）、栄養教育論実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスアワー、就職・編入学指導等個別相談		
教育上の工夫	<p>栄養教育論（食栄、昼、前期、2） 栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートを用い、学生の教育方法への理解を深めるのに努めた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習を行うためのサポートを行った。</p> <p>栄養指導論（食栄、昼、後期、2） 対象者に対応した栄養教育・栄養指導のあり方と方法論について、スライドとプリントを用いながら講義した。講義内容が多く、学生は付いてくることが大変だったと思うが、毎回の感想では、良く学習している姿が伺えた。また、毎回出席カードを用いて質疑応答をしたところ、たくさんの学生から質問が出ており、教科内容や栄養士について興味を深めたのが伺えた。栄養士としての基本的な知識が得られるように努めた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 栄養教育教室企画のプレゼンテーションと発表を動画配信することを目的に演習した。自主的に演習する内容が多く、この2年間の集大成になったという意見が多かった。また、パワーポイントの使い方なども勉強になったという意見も多く出た。</p> <p>管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2） 各教員によるオムニバス講義を遠隔授業で行った。大多数の履修学生は、将来的に管理栄養士を目指しているため、熱心に学んでいる様子が伺えた。管理栄養士国家試験の過去問題もしっかり解くよう促した。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識とマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。実習施設ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別対応を行った。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 食や健康に関する情報を自ら選択できるよう、栄養学研究の基本を教授した。興味のある課題を学生自身で設定し、解決に至るまでの方法論を教授し、卒業論文指導を行った。なおその一部を本学の小論文・作品コンクールに応募し優秀賞を獲得した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本未病学会、日本ビタミン学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			

### 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

地域連携事業	(1)阿部稚里「食事をバランスよく食べよう！」（講演），津市片田公民館，一般市民，2021年10月 (2)阿部稚里「食事をバランスよく食べよう！」（講演），津市中央公民館，一般市民，2021年7月
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与、日本栄養改善学会評議員
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。 (研究テーマの応用例：子どもに対する和食教育について)</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	北村香織（2021）「障害者虐待防止法と医療機関の通報義務」『みえ生活科学研究』No.1、pp.27-30。		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、就職活動支援、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。		
	<p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）          実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々の良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。今年度は、遠隔での現場実習となったので、通常の実習指導だけではなく遠隔で実習を行えるように、プログラムを考え、学生がインターネットを通して実習先とやりとりをするための準備を重ねました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（SS、昼、前期、3）          今年度は、遠隔での代替実習となったため、特に厳しい状況にある施設の実習担当者との連絡を密にとり、できるだけ先方の負担が大きくなるように努めました。2年生は実践的な内容が求められるため、学生が遠隔実習においても課題を焦点化できるように、また、問題意識を自分で深められるよう、代替実習中のコメントなどを行いました。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4）          社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨めるためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的にを行うようにしました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4）          ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在しますが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導も行いました。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）          コロナ禍で制限の多い生活を送る学生ですが、ゼミが仲間作りの場にもなるように、新聞記事の紹介や今日の一言などを通してひとりひとりが自分を表現できる場を特に重視しました。また、ゼミの内容についても、学生から積極的に提案をするように求めてとりくみました。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携講座「生活困窮者支援と地方自治体の課題」コーディネーター 2021年12月12日		
学外審議会委員等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員、三重県障がい者虐待防止対策支援事業に伴う専門家チーム構成員、亀山市新庁舎整備基本計画等検討委員会委員、三重県とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会全国障害者スポーツ大会専門委員会ユニバーサルデザイン部会委員、社会福祉審議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「社会福祉概論」、日本福祉大学教育・心理学部「関係行政論」		
3 一言アピール			
<p>障がいのある人が社会生活を送る時に障壁となるものは具体的に何なのかを分析しながら、皆が生きやすい社会の仕組みについて考察しています。また、女性の貧困や労働環境についても関心を持っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：ユニバーサルデザインのまちづくり、男女共同参画のまちづくり 等）</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：○地域包括ケアシステム推進における地域の課題分析、○後期近代における「互助」の在り方の検討。			
2 研究活動実績			
著書			
論文	武田誠一、「『共助を支える互助』を考える」『みえ生活科学研究』1, pp21-25, 2022年3月。		
その他	武田誠一「地域住民の『互助』活動における『規範的統合』の所在—三重県津市の『通いの場』における住民の語り—」, 佛教 大学大学院社会学研究科 修士学位請求論文, 2022年1月。		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後 期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（ 生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生前期のクラス会を毎月開催し、学生の学修・生活指導を行った。通年でオフィスアワー（週1回 1コマ）を実施し、ゼ ミ生、科目履修者の学修指導を行った。編入対策として、三重大学人文学部法律経済学科の指定文献の読書会を開催した。		
教育上の工夫	医療福祉論（生活、昼、前期、2） 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で 取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。また、ミニットペーパーを活用し学生の理解度を把握している。		
	社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4） ソーシャルワークを理解できるように事例を多く取り入れた。 主体的な学修ができるように、学生が発表する機会を積極的に取り入れた。		
	社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4） 少人数であるため、グループワークを多用した。 映像教材などを活用して、学生の理解度を高める工夫を行った。		
	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。		
	福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合 学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座 2021年10月、12月、計2回実施。		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、四日市市障害者差別解消 支援地域協議会委員 2018年3月～、津市社会福祉事業団評議員 2021年6月～		
学外講演会講師等	四日市常磐地区民生委員児童委員連絡協議会 研修会講師 2022年3月。		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		
3 一言アピール			
福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究 ソーシャルメディアを活用した食生活・意識向上に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Makoto Ohtsuki, Akinobu Nishimura, Toshihiro Kato, Yusuke Wakasugi, Rie Nagao-Nishiwaki, Ai Komada, Akihiro Sudos 「Locomotive syndrome is associated with insufficient nutrient intake in young and middle-aged adults: A cross-sectional survey」、Nutrition and Food Science, 52(3), pp569-580 (2021.7)		
その他	令和2年度三重短期大学 共同研究報告書「平成31年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」(2021.7)		
学会等報告	駒田亜衣、岡田ひろみ、古田佳奈子、大槻誠、女性の健康意識と食生活の向上に関する介入研究～ソーシャルメディアの活用～、第68回日本栄養改善学会総会、2021.9（誌上報告）		
共同研究 助成研究	共同研究「特定健康診査・特定保健指導の解析」（津市保険医療助成課） 2021年度地域問題研究所研究員「三重県津市における保健指導実施者の検査値推移」 やずや食と健康研究所 2019年度助成研究「ソーシャルメディアを活用した若年層の健康意識と食生活の向上に関する介入研究」（2021.12まで） 受託研究「BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）データ解析（生活共同組合コープみえ）（2021.11-2022.3）		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食運営管理論（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>調理学（食栄、昼、前期、2） 食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。 栄養価計算については、成分表の見方や項目の確認を丁寧に行った。</p> <p>調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1） 前期の実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。 2020年度は2グループに分けて実習を行った。調理実習の回数が例年と比較して少なくなったため、レポートによる考察や献立作成がしっかり習得できるよう配慮した。</p> <p>給食運営管理論（食栄、昼、後期、2） 大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1） 同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。 2021年度は厨房実習の回数を減らしたため、自宅での調理や栄養価計算、パワーポイントでのまとめなどの課題を増やして対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。 2021年度は校外実習の受け入れが変更になった施設もあったため、実習先と密な連携をとり、一部学内実習で対応した。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 2021年に開催予定であった「三重とこわか国体」は中止となったが、アスリート用弁当のメニューを3種類考案し、弁当パッケージデザインやお品書きの図案を作成した。また、レシピコンクールのための献立作成や試作を行い、1人1作品応募した。どちらの活動も、将来的に栄養士として働くうえで有効な内容であると考え、研究テーマとした。さらに、パソコン操作についても積極的に指導を行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「世界の料理講座（調理実習）」の開催 津市国際交流協会 高大連携授業講座「製菓実習」講師の受け入れ 相可高校		

### 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員 津地域栄養管理ネットワーク研究会委員
学外講演会講師等	津市ヘルスマイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「転倒予防・骨粗鬆症予防」(2021年10月) くらし安心講座講師(生活共同組合コープみえ)「自分たちの食事バランスを知り、これからの食事を考えよう!」(2022年2月) コープみえ広報誌(8-12月号)原稿提供(2021年8月-2021年12月) 津市保健所職員研修会講師(津保育所施設長連絡協議会、サンデルタ香良洲)「栄養に関する基礎知識」(2021.6)
その他の社会活動	三重短期大学出前講座(三重県農業大学校)「三重県の食状況について生活」(2021年10月) ZTV制作番組「おしえて先生」出演、旬の食材についてのコメント担当(2022年3月)
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部 食物栄養学専攻「公衆栄養学」担当
<p>3 一言アピール</p> <p>食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査・特定保健指導や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。</p> <p>(研究テーマの応用例： 有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題)</p>	



三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠 浩一郎
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	生活科学研究会 発表「一般教育としてのプログラミング教育」（2022年2月3日）		
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 基盤研究（C）「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」（代表者）（課題番号：17K02765）		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ（共通、夜1クラス、前期、1）、情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、後期、1）、数理科学（生活、昼、前期、2）、情報と社会（共通、昼、前期、2）、情報技術論・情報と科学（生活、昼、後期、2）、情報と社会（共通、夜、後期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ダンス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（居住環境コース）、4年制大学への編入学を目指す学生への数学、情報等の個別指導を実施した。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ（共通、夜、前期、1） 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。</p> <p>情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、後期、1） 情報処理実習Ⅱは、情報処理実習Ⅰで基礎的な能力を身に付けている学生が受講しているため、学生によるレベル差は情報処理実習Ⅰほど大きくないため、比較的難易度が高い課題に対しても、学生が十分に対応できていた。RESASを用いて実データをもとに現実世界の問題を解決することを考える授業にしたので、学生も意欲的に取り組んでいた。</p> <p>数理科学（生活、昼、前期、2） 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。</p> <p>情報と社会（共通、昼、前期、2） 難しい内容を理解させるために、分かりやすい図を増やすなど資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報技術論・情報と科学（共通、昼、後期、2） 情報技術の基本的な内容について学べる講義であるが、ITパスポート試験及び基本情報処理技術者試験に興味がある学生も多く受講するため、資格試験を意識した講義内容にした。講義内容の理解度を確認するテストでは、4択問題にすることで、難しい内容でも学生が取り組みやすいように意識した。</p> <p>情報と社会（共通、夜、後期、2） 難しい内容を理解させるために、分かりやすい図を増やすなど資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2） Scratchを用いたプログラミングのグループ実習を行なった。プログラミングの基本操作を簡単なゲームを作ることで体験してもらい、その後、グループでプログラミングして作品を作ってもらった。実際、グループで作品を完成させるのは困難だったので、作品のアイデアだけでも課題提出を可能とした。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究（プロジェクト）に取り組んでおり、2021年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作、HP制作、Pythonを用いたプログラミングなどを実施した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	小中学生向けプログラミング講座（新型コロナ禍のため中止）		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	伊賀市『悠々セミナー』 講演「人工知能の現状と近い将来」（2021年7月27日）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に関催していく予定です。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：高橋 彩
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：青年期のアイデンティティ形成、親子関係、道徳的判断			
2 研究活動実績			
著書			
論文	高橋彩 高校生は親がたずねれば話すのか？—精神的自立と親への親密性に着目して— 三重短期大学地域問題研究所地研年報, 第26号, pp.75-96. 2021年12月 高橋彩 短期大学生における政治的態度と道徳基盤との関連 みえ生活科学研究, 1, pp.11-20. 2022年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：心理学（生活・法1、昼、前期、2）、発達心理学（生活、昼、前期、2）、心理学基礎実験（生活、昼、前期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、心理学概論（生活、昼、後期、2）、心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2）、心理学研究法（生活、昼、後期、2）、青年期の心理（生活、昼、後期、2）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日15:30-17:00）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接指導を行った。就職未決定者に対する就職に関する相談にのった。		
教育上の工夫	心理学（生活・法1、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。配布資料の図表は引用先を示し、学生自身がさらに調べられるようにした。学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し、結果の見方などを解説した。 発達心理学（生活、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。DVDを用いて、乳幼児の言語発達、認知発達への興味や理解が深まるように工夫した。 心理学基礎実験（生活、昼、前期、2） 心理学実験の実験者と実験参加者の両方を体験しながら、データ収集、分析、レポート作成が身につくように、学生のペースに合わせた進捗で授業計画を進めた。特に提出されたレポートの添削を個別に行ったうえで、返却した。 心理学概論（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。テキストにない図や写真をパワーポイントで提示し、DVDも利用することで理解が深まるようにした。小課題や感想、質問を書くことで、学生が自分自身の体験と教科書の知識との関連を意識できるように心がけた。 青年期の心理（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。青年期特有の心理について、課題や感想を書くことを通して、学生が自分の経験や感情を振り返る機会をもてるようにした。動画をなるべく取り入れるようにした。 心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2） 配布資料とパワーポイントを用いて対面授業を行った。依存症、自殺、ひきこもり、発達障害、被災者など、支援を必要とする対象に応じた心理療法や支援法を解説し、ワークシートを用いて学生が自分で考えながら取り組めるように工夫した。 心理学研究法（生活、昼、後期、2） 心理学の代表的な研究方法である質問紙法、面接法、観察法を取り上げた。実験者として必要な態度やデータのまとめ方など、実験方法とレポートを作成するための基本的な知識を身につけることが出来るようにした。 福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 日本心理臨床学会の『心理臨床の広場』と、日本心理学会の『心理学ワールド』から、学生自身がそれぞれ1つのテーマを選び発表を行った。各自が作成した発表資料とその解説を基に質疑応答を行うことで、心理学の幅広い研究テーマについての知識を共有することが出来た。 福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文を展望論文の形でまとめることを目指した。前期は論文の検索の仕方を解説し、学生は各自が関心のあるテーマに関する本や論文を集めた。後期は卒業論文の執筆を中心に指導した。1月中に卒業論文を完成させることができた。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本青年心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「感情の心理学」（2021年12月） 出前講座「自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学」津東高等学校（2021年10月）、農業大学校（2021年10月）		
学外審議会委員等	四日市市市民協働促進委員会副委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	大谷保育協会「発達心理学1・2」		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

### 3 一言アピール

青年期のアイデンティティ発達、親子関係、道徳的判断に関心があります。2021年は衆議院議員総選挙があったことから、三重県在住の青年と成人を対象に、生活保護等の問題のとらえ方と、それが政治意識や道徳とどのように関連しているかについて調査を行いました。

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：准教授	氏名：相川 悠貴
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨と筋に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、登山時の生理的変化			
2 研究活動実績			
著書			
論文	相川 悠貴、堀場 みのり、阿部 雅里. ラート競技日本代表選手の減量を成功させた試合前 65 日間の栄養サポートの 1 事例. 日本スポーツ栄養研究誌. 15 : 78-85. 2022 年 1 月. (査読有) Aikawa Y, Horiba M, Yoshikawa A, Hori A, Fukuchi K, Fujihara S, Ogiso Y, Seki K, Takagi Y. Acute Effects of Moderate Aerobic Dance Exercise on Moods, Appetite, and Energy Intake in Young Adult Women. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 67(5):323-329. 143-148.2021 年 12 月. (査読有)		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 若手研究「走運動と食餌量制限によるエネルギー不足状態における筋質の評価」(代表者) (課題番号: JP20K19531)		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：解剖生理学(食栄、昼、前期、2)、解剖生理学実験(食栄、昼、後期、1)、運動保健学(食栄、昼、後期、2)、健康管理概論(食栄、昼、前期、2)、生化学(食栄、昼、前期、1)、生化学実験(食栄、昼、前期、1)、特別演習(食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	サッカー部顧問、硬式テニス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	<p>解剖生理学(食栄、昼、前期、2) 人体を構築する器官・臓器・組織の形態・構造・働きについて、栄養の消化吸収や栄養士の疾病対策に特にかかわりの深い消化器を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>解剖生理学実験(食栄、昼、後期、1) 人体の構造と機能に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。自身の身体を使った実験や、日常では観察することができない臓器切片の観察を行わせ、理解を深めさせた。</p> <p>運動保健学(食栄、昼、後期、2) 健康のために有効な運動の知識を身に付けさせるため、基礎的な内容に加えて、最新の知見を紹介した。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>健康管理概論(食栄、前期、2) 健康管理の制度について、栄養士に関連する内容について、ライフステージ毎の知識を身に付けさせた。学生の興味を引くため、最新の社会ニュースや動画を用い、学生でも用いられる制度の紹介を行った。授業毎に小テストを行い、知識の定着度を確認した。</p> <p>生化学(食栄、昼、前期、2) 糖質・脂質・タンパク質の構造とその生体内代謝機構について、栄養学や食品学の理解につながる内容を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>生化学実験(食栄、昼、前期、1) 生化学に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。一部では遠隔授業を実施した。試薬を用いて、実験の基礎を身につけさせつつ、生体内で起こる化学反応を実験室で調べた。</p> <p>特別演習(食栄、昼、通年、4) 骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養・食糧学会、日本スポーツ栄養学会、登山医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	高大連携授業出前講座「重量認知差試験、棒反応試験」2021年10月 高校ハンドボール部栄養サポート2020年12月～		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	三重大学「スポーツ健康科学b(テニス)」		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

### 3 一言アピール

非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて解明していきます。  
（研究テーマの応用例：健康教室の実施）

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：講師	氏名：杉野 香江
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：ビタミンDの欠乏状況と身体機能およびメンタルヘルスに関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Jun Uematsu, Hidetaka Yamamoto, Sahoko Kihira, Kae Sakai-Sugino, et al. Inhibitory effect of traditional herbal (kampo) medicines on the replication of human parainfluenza virus type 2 in vitro. Drug discoveries & therapeutics.15(4);180-188. (2021)		
その他			
学会等報告	山田徳広、織田奈央子、新名洋美、 <u>杉野香江</u> 「そば粉100%パンの調製条件の検討」日本食品保蔵科学会第70回大会（2021年6月） 杉野香江、谷愛莉、橋本伊吹、前ヶ迫清華「若年女性におけるビタミンD欠乏の可能性～日本人のためのビタミンD欠乏判定のための質問票の利用より～」第69回日本栄養改善学会（2021年9月）		
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、栄養学（食栄、昼、後期、2）、食生活論（生活、昼、後期、2）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）食栄2年生就職指導、食栄2年生編入学指導、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2） 15回の限られた時間で多くの内容を理解してもらうため、パワーポイントで要点をまとめ、かつ資料を配布することで、復習をしやすいように工夫している。また、特に重要なポイントは書き込み欄を設けることで、記憶に残りやすいよう配慮した。講義では、学生の興味を引くよう、献立例や症例の写真等を取り入れている。</p> <p>栄養学（食栄、昼、後期、2） 栄養士必修科目かつ卒業必修科目であり、栄養士養成のための基礎的な知識を習得する必要があることから、生化学等の復習も交えながらゆっくりと丁寧に説明することを心掛けている。資料については、重要なポイントや覚えるべき内容に書き込み欄を設け、記憶に残りやすく、また復習しやすいよう工夫した。</p> <p>食生活論（生活、昼、後期、2） 複数の専攻の学生が受講することから、栄養学や食品学の入門の内容を丁寧に講義した。食に関する社会問題や、世間で見かける健康情報などの身近な話題に触れることで、学生の興味を引く工夫した。</p> <p>栄養学実験（食栄、昼、後期、1） 栄養素の特徴や消化や代謝についてなど、栄養学の講義で学んだ知識をより深めることができる実験・演習内容にしている。実験を行うだけにとどまらず、データについて十分に考察できるようにレポートの課題内容を工夫した。</p> <p>調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1） 各ライフステージにおける、食事摂取基準に応じた献立作成を行い、実際に自分の献立を調理できるようなスケジュールにしている。また、食材の調理性、行事食の応用など、幅広い体験ができる内容を取り入れた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） ビタミンDの欠乏状況とメンタルヘルスに関する調査研究と、身近な食品から分離した酵母の製パンへの利用の2つをテーマに、演習を行った。調査研究では、調査票の作成、食事調査の解析、調査結果の分析手法など、少人数制である利点を生かし、丁寧に指導を行った。また、酵母の利用性については、学生の興味や関心を追求し、調理の応用力を高めることができた。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、骨粗鬆症学会、体力医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	世界の料理講座（調理実習）の補助 津市国際交流協会		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	出前講座「骨の健康を守るために」（講師）津市南ヶ丘会館（2021年8月） 出前講座「骨の健康を守るために」（講師）津市中央公民館（2022年2月）		
その他の社会活動	健康応援番組「おしえて先生」睡眠と栄養について（講師）ZTV放送（2022年2月）		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 生涯健康な生活をおくるためには、身体機能およびメンタルヘルスの維持が重要です。これらに関連する食習慣、生活習慣について、調査し検討しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：助教	氏名：飯田 津喜美
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究、ササゲ属マメに関する研究、食文化に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	共著「伝え継ぐ日本の家庭料理」シリーズ、(一社)日本調理科学会、農山漁村文化協会 No.11「いも・豆・海藻のおかず」2021年6月執筆担当p.65白みとり豆と里芋の煮物、No.16「四季の行事食」2021年9月		
論文			
その他			
学会等報告	飯田 津喜美、磯部 由香、阿部 雅里、乾 陽子、奥野 元子、久保 さつき、小長谷 紀子、駒田 聡子、鷺見 裕子、成田 美代、萩原 範子、平島 円、水谷 令子；次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理 三重県の家料理 行事食の特徴 豊かなすし文化紹介、日本調理科学会2021年度大会（オンライン開催）、2021年9月		
共同研究 助成研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析） ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、臨床栄養学実習（食栄、昼、前期、1）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バレーボール部顧問		
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任、食栄2年次生クラス担任（就活指導等）、オフィスアワー		
教育上の工夫	実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 実験実習が滞りなく進行するように担当教員の補佐を務めた。また、研究で培った実験手法等を学生にわかりやすく伝えるよう努めた。 特別演習（食栄、昼、通年、4） ササゲ属豆の調理科学的利用法についての研究では、SDGsの視点を踏まえた豆のゆで汁レシピ開発を行った。文献の読み解き方、研究のまとめ方、プレゼン指導等を通して実社会に必要な知識及び技術の習得につながるように努めた。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本生化学会、日本調理科学会、日本蛋白質科学会、日本熱測定学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター2021年度「橿原地域の魅力創出のための調査研究」		
学外審議会委員等	三重県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会委員（2010年6月～現在）同スポーツ栄養学班班長（2020年6月～現在）、日本栄養改善学会評議員（2018年11月～現在）、一般社団法人（一社）日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員（2012年～現在）同三重県副責任者（2014年～現在）、公益社団法人三重県栄養士会 理事（2021年5月～現在）		
学外講演会講師等	スポーツ栄養指導教室講師（分担）三重県立四日市工業高校、11月25日		
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事		
他大学非常勤講師	放送大学2021年度第2学期面接授業「食と健康を探る」、2022年1月8～9日		
3 一言アピール			
<p>タンパク質は、その構造や機能を調べることで様々な性質を知ることができます。現在、大阪府立大学との共同研究において、生体内輸送蛋白質であるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し、本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。</p> <p>また、三重県の伝統食材（シロミドリ豆等）を調査し、調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食の継承活動も行っていきます。</p> <p>（研究テーマの応用例：食材の調理科学的有効利用法の提案、食生活改善普及事業の実施と評価等）</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：助教	氏名：服部 知美
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：保健機能食品、機能性表示食品に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	服部知美、長村洋一「生活習慣病予備軍への食生活改善指導媒体「保健機能のあるバランス食」の開発とその有用性」第24.25回日本病態栄養学会年次学術総会 京都2022.1		
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、調理学実習Ⅲ（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 円滑な実習の進行のための前日当日の準備、及び運営のための実習費の管理に努めた。特に給食計画実務論実習Ⅰでは、自身の現場経験に基づく細部にわたる助言、指導を心がけた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 国体弁当のアスリートに向けた献立作成に取り組む等、栄養士として必要な技術面、研究を幅広く習得できるカリキュラとした。また、地元テレビ局制作の「みえたん特製国体弁当レシピ」の取材を通じて、国体弁当レシピを学生自ら実演することで栄養士としてのプロ意識を自覚する機会を与えることができた。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「成果発表カフェ」2021.12		
学外審議会委員等	伊勢市中学校給食共同調理場調理等業務委託プロポーザル選考委員会委員長 2021～2022		
学外講演会講師等	三重短期大学出前講座「コロナ禍における生活習慣病の予防」 津地方家庭裁判所 2022.2		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>健康の維持増進の要となる食生活について、地域の皆様が心から重要と感じ、食生活改善への行動変容へと導けるよう、講演会、学会等を通じて発信していきます。</p> <p>また、生活習慣病予防のための若年層への教育活動にも今後さらに力を注いでまいります。</p>			



三重短期大学教員研究・教育業績（2021年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻・食物栄養学科		職名：助教	氏名：福安 智哉
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：CF患者の腸内細菌叢に関して			
2 研究活動実績			
著書			
論文	共著：Kazuki Kioka et al.Effects of Soy Protein Intake on Low Bone Mass Caused by Energy Restriction in Young Female Rats,Current Developments in Nutrition、Volume 5、Issue Supplement_2、June 2021、Page 540,2021年6月7日		
その他			
学会等報告	日本脾臓学会(2021/9/22~23「囊胞性線維症患者の腸内細菌叢解析」)		
共同研究 助成研究	アレルギーマウスにおける腸内細菌叢の変容（2021~）		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：食品学実験（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養教育論実習Ⅱ（生活、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、2年生）、食栄学生編入指導（2年生）		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 各種実験実習において、円滑な進行の為に事前準備、助言を行った。加えて、感染症対策の為に複数教室での授業の準備計画を行い、円滑な進行に努めた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 特別演習において、PCR法という近年注目されている点の基礎知識、応用、調査方法と幅広く講義を行い、どのような進路であつても役に立つようなカリキュラムとした。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 校外実習事前事後において、感染症対策の為に校内実習となった学生が発生したが、円滑に実習が行われる為に注力した。書類やメールでのやり取りが増加したため、基本的な送付方法等の指導を行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本脾臓学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「管理栄養士国家試験対策講座」の補助 2021年10月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	囊胞性線維症支援ネットワークに所属		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
腸内細菌叢というのはとても複雑で、様々な要因によって変化するのに加えて、疾患との関連が報告されています。栄養は腸内細菌叢を変化させる要因として代表的な物ですので、研究で得た知見を元に、より良い腸内細菌叢についてや、変え方等の指導をしております。			